

平成19年度

「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」

実施報告書

日時 平成20年3月14日(金)14時～16時30分

会場 大阪市立中央図書館 大会議室

平成19年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会

1. 日時 平成20年3月14日（金）14時～16時30分

2. 会場 大阪市立中央図書館 大会議室

3. 議事次第

（1）事務局報告

① 平成19年度「大阪市子ども読書活動推進事業」実施報告

子どものための施設ガイド「タッチ」 (資料3 参照)

子ども読書の日記念事業 (資料6に含む)

学校図書館支援モデル事業 (資料4 参照)

各区子どもの読書活動推進連絡会 報告 (資料5 参照)

② 図書館における子ども読書活動推進関係事業について (資料6 参照)

（2）区の子ども読書支援活動について－4つの区から実践報告－

（3）意見交換

目 次

○区の子ども読書支援活動について－４つの区から実践報告－

区の子どもの読書活動推進連絡会での取り組み（阿倍野区）	1
区の子どもの読書活動推進連絡会での取り組み（鶴見区）	2
学校図書館支援モデル事業実施校（泉尾東小学校）の活動について（大正区）	4
神津小学校区はぐくみネット「絵本のくに」の取り組みについて（淀川区）	6

○意見交換

①学識経験者からの助言	10
②大阪市PTA協議会、大阪市生涯学習推進員協議会からの発言	12
③各区代表者からの質問、意見	14

○当日配布資料

資料1 「大阪市子ども読書活動推進計画」－概要－	19
資料2 大阪市子どもの読書活動推進連絡会設置要綱	21
資料3 平成19年度子ども読書活動推進事業について (市民学習振興担当分)	23
資料4 平成19年度 大阪市学校図書館支援モデル事業 報告のまとめ	25
資料5 平成19年度各区子どもの読書活動推進連絡会 報告	27
資料6 平成19年度大阪市立図書館子ども読書活動推進関係事業のまとめ	30
資料7 阿倍野区子どもの読書マップ	33
資料8 絵本講演会「親子で楽しむ絵本の世界－読みがたりの魅力－」	34
資料9 淀川区神津小学校読み語りグループ絵本のくに…感動つたえ隊	35

○出席者名簿

平成19年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会出席者名簿	37
平成19年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会事務局名簿	38

〇区の子ども読書支援活動について～4つの区から実践報告

■区の子どもの読書活動推進連絡会での取り組み (阿倍野区)

一「阿倍野区子どもの読書マップ」づくりを 中心に

堀 久仁子(阿倍野区コミュニティ協会)

私、阿倍野区コミュニティ協会の堀と申します。
よろしくをお願いします。

皆さんのところの連絡会の中でコミュニティ協会が関わっている区がありましたら手をあげていただけますでしょうか。(4～5人挙手)

コミュニティ協会がどんなことをしているか、皆さん、ご存知でしょうか。区民センターとか〇〇会館とかを管理している団体ですけれども、各地域にそれぞれ区民センターや会館があります。北区だったら北区民センター、城東区だったら城東会館やホールがあり、その施設の管理をしている団体なのですが、どうしてその団体が読書活動に関わっているかということから始めたいと思います。

元々、阿倍野区では、2002年から子育て支援連絡会という連絡会議があり、子育てグループとかおはなしのグループ、行政機関などが入って、子育てについての情報交換をしようという連絡会を月に1回持っています。

そのメンバーでいろいろ話をしていの中で、図書館で活動しているグループや地域にある桃山文庫やろばのこ文庫といったところで、それぞれボランティアの方がいらっしゃるけれども、なかなかグループの交流が進んでいないような気もするなということがあり、何か一度、みんなのできることはないかなと探していました。

その時に、子育て関係の情報をいろいろ持っている子育ていろいろ情報センターで、「いろいろ絵本展」という乳幼児向けの絵本展をされていました。阿倍野でもできないかなということで、向こうにもお話しさせていただいて、絵本展の企画をしました。ここで初めて、おはなしのグループとか区社協さん、ファミリーサポートセンター、コミ協、こういったところが一緒にイベントで協力しあうということをしました。

はじめは、やっぱり絵本展なので、絵本をみんなに読んでもらえる機会にしたらいいなだけだったんですけれども、何回か会議を持っている間に、子育ての情報については交換しているけれど、なかなか本のことについて、おはなし会をここでやってるよと

か、こういうところに本屋さんがあるよって情報ないですよってという話になりました。

阿倍野区では情報マップっていう、区のほうが出しているマップですけれど、災害があったときにどこに行ったらいいとか、生涯学習センターとかそういう情報を聞きたかったらどこに行ったらいいかという情報を載せているマップがあるんですが、この裏面が阿倍野区の全図になっているので、このマップをちょっと貸してもらおうということで、このマップに、おはなしをやっている所などの場所を、マーキングしていくことにしました。(資料7参照(本報告書33ページ))

ちょっと見えにくいとは思いますが、黄色いところは、図書館のまちかど号がやって来るところを示しています。赤い大きな家のマークは、おはなし会をされている本屋さんです。それから小さい本屋さんだけでも、子育て中の方はベビーカーを押して遠くの本屋さんまでなかなか行けないので、家の近くにある本屋さんを探しやすいようにしてあげたらどうかということ、こういうマップを作って張り出すことをしました。

それ以降、このマップは地域の子育ての行事に持って行って張り出すということはずっとしていましたが、このマップだけがあっても、メモして帰れないということで、ずっと何かいい方法はないのかなと言っていたんですが、ないよりましということはずっと使っていました。

2007年度に、この連絡会ができて、みんなで何をしようかなと考えた時に、このマップを一人ひとりに渡せるように、もう一度、情報を見直して、まとめようということになり、まとめたものが、資料7(本報告書33ページ)にあります「阿倍野区子どもの読書マップ」です。

これは、図書館の情報だけではなくて、いろんな本屋さんの情報もありまして、これについては、本屋さんのところに、地域のボランティアの方が聞きに行かれて、こういうマップをこれから作りますけれど、載せていいですか、載せていいですよ、どこまで載せていいですかとか宅配ができるところはありますかとか、一人ひとりが自分のよく行く本屋さんとか、家の近くの本屋さんに足を運んで、こういう形の一枚のものにまとめています。

子育てのいろんな支援をしているところの情報も載せますし、本屋さんの情報も載せますということで、これ一枚持っていたら、少し気になった時に使

えるわと、区役所の場所などいろんな施設の場所が少しずつわかって、地域に新しく入ってきた方も、今まで住んでいる地域だけしか知らなかったけれど、区全体のことが見えるようになったねという声も聞いています。

このマップは、現在、図書館でも、もちろん配られていますけれども、載っているところには置いておかないと意味がないということもありますので、載っている施設では、置いていただいて、配布もしています。地域のサロンなんかでも、もちろん置いています。

また、明日、地域で子育てのイベントがあるんですけど、そこでも、張り出し用のマップと配布用のマップは活用されて、小さいお子さんを持っているお母さんたちにどんどん配られていくという形になっています。

■区の子どもの読書活動推進連絡会での取り組み (鶴見区)

一「絵本講演会」の実施を中心に一

室屋 佐知子（絵本の会 鶴見）

皆さんこんにちは。絵本の会鶴見の室屋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、鶴見区の子どもの読書活動推進連絡会の活動についてご報告させていただきます。メインは、連絡会の事業ということですので、そのことを中心にお話しさせていただきます。

子どもの読書活動推進連絡会は、一昨年、平成19年1月に鶴見区の関係機関や団体に呼びかけがありまして、2月27日に連絡会準備会が開催されました。この第1回準備会では、図書館を始め、区役所の担当の方、子ども・子育てプラザ、小学校の読書支援ボランティア、そして私たち、図書館のボランティアが参加しました。

事業を始める発端ですけれども、準備会に集まった時に、それぞれの活動や課題について報告を行い、今後の課題について話をしたのですが、単に活動報告だけで終る会議にはしたくないねという意見が出ました。

鶴見区は、3年前に区政30周年を迎えました。その時に、区民ホールや区民センター、図書館が一新されたのですが、30周年記念事業として、「愛Love子どもフェスタ」という区をあげての行事が大々的に行われました。それが大好評だったので、それから毎年行われています。そのフェスタに、社

会福祉協議会やコミュニティ協会、子育て支援センター、子ども・子育てプラザ、絵本の会、そういったいろいろな団体が、各ブースを担当して、読み聞かせや人形劇、遊びのコーナーなどをつくり、子どもに体験してもらいました。また、保健福祉センターや消防署、警察署も情報コーナーや相談コーナーを設置され、来ていただいた親御さんや子どもたちに大変喜んでいただける催しになりました。

そういった経験がありましたので、横と横とのつながりを持ったような催しができないものかという意見が出ました。予算上の問題がありますので、実現は無理かもしれないと言っていたのですが、ある方が、鶴見区は、毎年9月に区民まつりを行っているので、そちらのほうに参加してはどうかという意見を提案されました。区民まつりというのは、区の広報紙はもちろん全家庭にチラシや案内が配られますので宣伝の効果は大いにあり、また、いろいろ工夫の余地があるのではないかとということでした。

図書館長さんが、区民まつりへ連絡会として参加するということについては、実現の可能性があり検討するということでまとめられました。そして、改めて、次回の6月に、事業内容について話し合うこととしました。

6月の第2回準備会は、社会福祉協議会の方も参加され、活動報告を行った後、区民まつりでの催しについて、みんなで話し合いました。

区民まつりといえますのは、鶴見緑地で、各種団体が、それぞれテントを張って、いろんな催しをしているんですが、区民まつりの場所で行うには、スペースの確保が難しいということと、読み聞かせをしたりするには、ちょっと騒がしすぎる環境だということで、場所をどこにするかといったことも話し合いました。

議論する中で、区民まつりの会場の鶴見緑地からは、区民ホールや図書館は少し距離があるので、こちらに人を呼び込むという形で、講演会を区民ホールで行って、その後、絵本の読み聞かせをしてはどうかという提案がありました。といいますのも、図書館での「えほんのじかん」というのがかなり定着していて、毎回、たくさんの子どもが来ていましたので、そういった形で子ども連れのおかあさんたちを呼び込もうという思いがありました。

事業の内容は、資料8（本報告書34ページ）にある通りです。講師や時間、会場などは図書館のほう

で調整していただき、事業の分担などは次回の連絡会で決めるということになりました。

区民まつりは9月9日だったのですが、その少し前、9月5日に正式に鶴見区子どもの読書活動推進連絡会の立ち上げとなり、その時に、小学校やコミュニティ協会、保健福祉センター、子育て支援センターなど連絡会のメンバーに、原案が固まっておりましたのでこのチラシが資料として配られ、当日の作業分担をきめました。

講師の対応や司会は図書館で、会場の受付は、私たち「絵本の会鶴見」とおはなしサークル「でんでんむし」というグループでさせていただきました。終了後の忘れ物確認や戸締りは、みどり小学校の図書ボランティア、会場の設営や撤収は、区民センターと図書館とで行いました。関係施設の方々にも、チラシの設置にご協力いただきました。みんなで、ひとつの行事をやるということ、こういう形でさせていただきました。区民センターを会場とさせていただきますましたが、区民センターから、使用料免除などのご協力をいただいたと聞いておりますし、講師謝礼については、図書館の負担と聞いております。

絵本講演会の内容ですが、講師の乃村葉子さんが、以前、中学校の先生であったということもあり、とっても、お話が楽しく、わかりやすい内容でした。また、ごまだんごさんによる「えほんのじかん」もとても楽しくてよかったです。

ただ残念なことに、区民まつりの会場と少し離れていたこともあって、講演会の参加者は28名と少ない参加になってしまいました。全戸配布のチラシなどでの広報宣伝について、効果がなかったのかなというのが反省点としてありました。

一方、ごまだんごさんによる「えほんのじかん」については、参加者が43名と多めの参加がありました。区民まつりが3時まででしたので、その終了後、来ていただけたのかなと思っております。「えほんのじかん」は絵本の読み聞かせや紙芝居、ペープサートなど、普段通りの楽しい内容で、子どもたちも喜んで、乃村先生も一緒に参加されての楽しいひとときとなりました。

先月2月27日に第2回の鶴見区の連絡会を行いました。9月の連絡会事業のまとめと来年の事業について話し合いました。今後について、区民まつりと一緒にするのはやはりむずかしいかなということになりまして、区民まつりとは切り離して、企画内

容に沿った日程を設定しようということになりました。

今回は、乳幼児を対象にした事業だったのですが、なかなか小学生が図書館に来てくれないね、どうかして小学生を図書館に呼び込みたいねという意見もあり、来年度は、対象を小学生とし「広げよう・読書の世界」ということで、夏休みに連続2回講座とし、第1回は、おはなしとブックトークを楽しもう、第2回は、読書感想文を書いてみようといった内容で、低学年と高学年に分けて、それぞれ2回ずつ行っただろうかという方向で話が進んでおります。これに関しては、6月に連絡会を行う予定になっておりますので、その時にくわしい内容を詰めることになっております。

最後にまとめのようなことを、お話しさせていただきたいと思います。館長さんが、常々、おっしゃっておられることなのですが、図書館は変わっていくんですとおっしゃるんですね、その言葉が、私とても印象深くて。

鶴見図書館は、今年の4月から、貸出や返却といったカウンターの仕事などが、民間に委託されました。その分、館長さん始め、図書館の職員さんが、こういった連絡会もそうなんですけれども、いろいろやってみよう、みんなで一緒にやろうという姿勢がほんとによく伝わってきて、私たちボランティアも、すごく次はどんなことをしようかなという感じで、本当に力をいただいております。

そんなような活動をされているのと、小学校のおはなし会にも、実際に職員さんが参加されたりですとか、学校の先生を対象に講座をされたり、区内のいろんな施設を見学・訪問されたり、また、この1月からは、先ほども言いましたけれど、小学生を何とか図書館に呼びこみたいねということで、小学生を対象にした絵本の読み聞かせの行事もさせていただいております。その行事では、職員さんや館長さんも一緒になって絵本を読んでいただいております。

また、来年度は、さらに新しい試みをしようと考えているということで、本当に、ありがたいなと思っています。今、よく財政難とか言われていますけれども、いろんな団体や人と人との輪が繋がって行って、いろんな楽しいことができるのは、本当に楽しいことだなと実感しております。

図書館が変わっていくように、私たち大人や子どもも、そして社会もよい方向へ変わって行けばいいなと思いますし、私自身も子どもを育てる親として、

その一端を担えれば本当に幸せなことだと思っております。

■学校図書館支援モデル事業実施校

(泉尾東小学校)の活動について(大正区)

今枝 義啓(泉尾東小学校校長)

菅原 道子(泉尾東小学校図書館ボランティア)

南部 里美(泉尾東小学校図書館ボランティア)

今枝 大正図書館長から依頼を受けまして、そんな先進的な取り組みは、やってないし、できませんと言っておりました。また、卒業式が間近で、無理ということで、お断りをずっとしておりました。しかし、大正図書館には子どもたちもお世話になっておりますので、それではということで、この会で報告をさせていただこうということになりました。

平成18年7月に、大阪市教育委員会で、学校図書館支援モデル事業の募集があり応募しました。私自身も、子どもたちへの読書に関心がありましたし、子どもたちのためになればと思い、モデル校として、約1年半取り組みをしてまいりました。

本校の教職員だけで、図書館活動を充実させるには、特に学校図書館主任や学級担任への負担が増える。本校でも司書教諭の免許状がある方は4名おりますけれど、4名とも担任を持っています。地域や保護者との連携を考えていましたので、ボランティアを募って、その協力のもと少しでも現状よりは、よりよい読書環境づくりができればいいなという考えで出発をいたしました。

平成18年の11月に保護者を対象として、第1回目の図書館支援ボランティアの募集をいたしました。これ以降、ボランティアという呼び方をしますが、出発の時は、PTAの役員さん、それから元PTAの実行委員さんに声をかけて協力を依頼しました。今日、来ていただいている菅原さんは、子どもさんはもう中学校へ行かれて、小学校にはいませんけれど、ボランティアとして協力していただいております。南部さんは、元PTA役員で、現在、子どもさんが小学校におられるということで、子どもさんが小学校におられる立場と子どもさんが小学校にはいないけれど、協力していただいているという立場でお話をさせていただけたらと出席させていただいております。

最初の時点では、7名のボランティアの方が協力していただきまして、平成18年の11月8日に第1回図書館支援ボランティア会議を開きました。私が

座長のような形でボランティアの活動内容、活動時間、活動形態、活動日誌、名簿、それから連絡網など、活動の基礎あるいは組織に関わることの共通理解を図っていきました。

7名のボランティアの方は、日頃から非常に顔見知りでありまして、学校教育にも非常に協力的な方でありました。ボランティア会議は、いつも、明るく楽しい雰囲気で行うことができました。第1回目のボランティア会議では、火曜日と金曜日の昼休み、放課後週4回、図書館を開くことが決まって、図書館開放のみの活動内容としてしばらく行なっていました。

ボランティア会議を、今までに7回開催して、その時、その時に出てきた問題を1つ1つ話し合っ解決を図っていきました。ボランティア会議で話し合われた内容は、文書にして、ボランティア全員の方に送付するとともに、本校教職員にも、どのような内容が話されているのかを、その都度報告して、教職員への周知と協力を求めていきました。ボランティアの募集も今までに4回行いました。多いときは13名までになりましたが、現在は12名で行っています。来年度には家庭の事情によって、ボランティア活動を辞退される方もおりまして、常時必要なボランティアの方の確保が課題の一つと思っています。これについては、また、あとで述べます。また、1名の方は、子どものおばあさんが、ボランティアとして加わっていただいております。

ボランティアの方と大正図書館の協力によりまして、春、夏、冬休みの学校休業日におけるおはなし会の実施や、夏休みには、プール開放日にあわせて10時から12時まで2時間、図書館開放を1週間程度行いました。今後も、休業日中における図書館開放や読書活動充実を模索して、よりよい図書館利用を進めていきたいと考えています。

ボランティア活動や図書館開放等については、定期的にあるPTA実行委員会の席上などで、必要に応じて、私のほうから話をさせていただいております。そして、PTA実行委員の皆様にもさらなる協力を求めているところです。この2月には図書館支援ボランティアの募集や平成23年度から始まる英語活動のボランティアの募集についても、PTA実行委員会で、私から、図書館支援ボランティア、英語活動のボランティアの依頼のお話をさせていただきました。

もう少し具体的な活動についてお話を進めさせていただきます。活動日時は、当初から変更いたしました。子どもたちの利用しやすい時間を考えて、月曜日から金曜日のすべての曜日の開放を基本として、現在、行っています。毎日開放することで、いつでも図書館が開いているということになり、子どもたち、特に本の好きな子どもにとっては嬉しい状況であると思っています。これもボランティアの方の協力があって出来ることであり、子どもの利用が少ない曜日や時間帯などは、私のほうが非常に恐縮するほどです。

活動内容も毎日の自由読書だけではなく、大正図書館の協力を得まして、1年生、2年生、3年生と4・5・6年生の4回に分けて、おはなしを聞く会を図書館開放の時間帯に開いたり、また、休業日中にも低学年、高学年に分けておはなしを聞く会を開いています。春休みの3月25日にも10時から2時間、低学年と高学年でおはなしを聞く会を行ってまいります。少しでも子どもたちが、本との出会いをつくる場面を工夫していきたいと思っています。

また、図書館開放やボランティアと直接関係はありませんけれど、学校での教育課程内でも、各学級でおはなしを聞く会を持ちました。これも大正図書館との協力で行い、この2月には全学年、全学級で、45分間、3つから4つのおはなしをそれぞれの教室で行っていただきました。どの学年、どの学級もおはなしをしてくださる方のおはなしをくいきいるように聞いていました。こどもたちの感想にも、おはなしを全部覚えていておはなししてくれて、すごいなと思いました。あんなふうに場面の変わりなどで、声の調子を変えておはなしできるのもすごいなと思いましたなど書いていました。この全学級を対象のおはなし会は、泉尾東小学校では以前から行われていて、子どもたちも楽しみにしている一つです。来年もお願いしますと書いていた子どももいました。

このように、いままでの取り組みの素地があればこそ、静かに興味を持っておはなしを聞けるのかなと思っています。図書館開放の短い時間帯であっても、おはなしを聞く会でも、おはなしをする人の話にすぐ入っていくことができ、本当に静かに聞いているなど感心するほどです。ボランティアの方にはその他、図書館の掃除、本の修理などいろいろやっていただきまして、ありがたい気持ちで一杯です。

最後に、課題と今後の方針をお話ししてまとめたいと思います。報告の中でも少しお話ししましたけ

れど、課題の一つ目として、新しいボランティアの方を発掘して、常時15名程度確保して、ボランティアの方には、1月当たり、2回から3回程度の協力を継続して行っていただきたいと考えております。そのために、保護者のみならず地域にも声をかけて、また、4月にも募集したいと考えています。

課題の2つ目として、毎日、図書館開放をしていますけれど、昼休みは、よく利用されますが、時間が短くて、低学年の子どもでは、給食を食べる時間がかかって、図書館に来て本を探すだけで時間が来てしまい、本を読むまでには至らない子どもが見受けられます。また、放課後は3年生以上の学年を対象としますが、それぞれが放課後の予定や計画などがあって、限られた子どもの利用になっており、利用人数も少ない状況であります。また、雨の日は、利用は多いですが、晴れの日には、子どもたちは運動場で遊ぶことが多く、その分、利用人数が限られてきます。曜日や時間帯についても、何回かボランティア会議で話をしてきましたけれど、現時点では学校の行事、各学年の時間割、そしてボランティアの方に協力していただける時間帯などから、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日の昼休み、月曜日と水曜日の放課後でよいのではないかと考えています。来年度もこの曜日、時間帯で実施してまいる予定です。子どもたちが、もっと図書館を利用できる時間帯については、ボランティアの方と教職員と協議しながら、これからも検討していくつもりであります。

課題の3つめとして、今ある図書館の建物が、元幼稚園の教室を改造したものであり、通常の学校にある図書館とは異なり、少し大きめの部屋と絵本室も備えており、部屋だけを見ると恵まれていると思います。また、独立した建物であり静かな環境が保持されています。しかし、子どもたちが日常いる教室から離れた別棟になっており、管理面での問題点や子どもだけの利用は、目が行き届きにくい面があります。図書館を、子どもたちのいる本館や北館へ移すことも検討しましたが、教室配置上や空調施設の問題で、今のところ、教育委員会からも無理だと言われております。そのために、現状のままでの問題点を、いかに少なくしていくのが課題であります。よりよい方法があれば模索して、それについても検討していきたいと考えています。

その他に、ボランティアの方単独での本の読み聞かせの実現、休業日期間中の図書館開放やおはなし会の充実、また、学級担任による図書館利用の推進、

毎週金曜日の朝の読書タイムでの内容のさらなる充実を図っていきたいと考えています。大正図書館から図書の貸出もしていただいていますけれど、いろいろな課題を解決するためにも、モデル事業の1年目だけではなくて、図書の購入とか図書の整備、図書館整備等に関わっての継続的な予算をお願いいたしまして、私の報告とさせていただきます。

続いて菅原さんから報告させていただきます。

菅原 こんにちは。図書のボランティアをしております菅原と申します。どうぞよろしく願いいたします。ただいま、今枝校長先生から、私たちの活動内容について、ほとんど報告していただいたんですけど、重複することもあります。ボランティアの立場からということで、報告させていただきます。

ボランティアは、現在12名で、在校生の母親や祖母、そして私のような卒業生の母でやっております。

活動時間は、図書館開放のある月曜日から金曜日の内、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日の昼休み1時10分から1時30分までの20分間と、月曜日、水曜日の放課後、2時40分から3時40分までの1時間です。1人、1ヶ月に3回程度で学校側のほうで調整していただきますので、ボランティアどうし無理のないように活動しております。もっと、ボランティアの人数を増やしたいのですけれど、働いている方が多いので、なかなかむずかしいというのが現状です。それに、はぐくみネットの新聞のほうにも募集の記事を載せていただいております。

最初にボランティア会議を開き、まず、本の整理から始めようということになりました。どのようにしたらよいのか、わからないことばかりでしたので、大正図書館にご指導いただきました。ブックエンドが少なく本が倒れていたの、ブックエンドを増やしたり、奥行きが違う本を、手前で揃えたりしました。たくさん本がありましたので、あいうえお順に色の違うシールを貼り、色分けをして返却場所をわかりやすくしました。特に、物語や絵本、小説などの本が多かったので、シリーズ分け、ジャンル分けもしました。次に、ぼろぼろになった背表紙の張替え、ページの修理などを行いました。最近では、図書委員の子どもたちも一緒に手伝ってくれることもあります。

そして、もう1つの活動として、大正図書館の司書の方が、子どもたちにしてくださる読み聞かせのおはなし会もお手伝いしております。

泉尾東小学校の図書館は先ほども言われました通り、元幼稚園のあった建物の中にありまして、とても広く、子どもたちの教室のある校舎とは別の建物で、1階は家庭科室、2階の部分を図書室、絵本室として利用しております。絵本室には、じゅうたんが敷いてありますので、上靴を脱いで座ることができ、くつろいで本を読むことができます。先日、転校してきた子どもさんが、この学校の図書室は、本がたくさんあって、とても広いと言っておりました。この恵まれた環境をぜひ私たちは、継続してほしいなと思っております。

それに、もう1部屋、空いておりましたので、PTA図書をそちらに置いてはどうかという案も出ております。そうすることによって、夏休みのプール開放のときなど親子で利用してくれるのではないかなと思うからです。でも、そうしますと子どもたちだけなので、別の建物にある図書館を利用するということは、目が届かないように思いますので、ボランティアとして、やはり大人がそばにいないことが必要ではないかと思っております。

こどもの利用人数ですけれど、放課後より昼休みの短い時間のほうが多く、子どもが忙しいんだなあと思うこの頃です。雨のときは、やはり利用が多いようです。学校の社会見学や授業の内容と関連のある本を、先生と一緒に子どもたちが探しにきたりする時があります。あと、大正図書館が近くにあるおかげで、子どもたちから読んでみたい本のアンケートを取って、それを団体貸出として、台車に乗せて、わざわざもって来ていただいております。やはり、この本を楽しみに来てくれる子どもたちが多いようです。

最後になりましたが、子どもたちが、たくさん本を読んでくれるように、ボランティアとして少しでもお手伝いできたらいいなと思っております。

■神津小学校区はぐくみネット「絵本のくに」の取り組みについて（淀川区）

松尾 佳美（神津小学校絵本のくに）

絵本のくにの松尾です。私どもは、淀川区の神津小学校をベースに活動しております。神津小学校区は、北野高校から十三の繁華街まで、非常に幅広い教育環境にあるところでございます。

資料9（本報告書35ページ）を見ていただいたらわかるんですけど、平成14年、今から6年前に、当時2年生の親が、子どもたちのためにと、図書の

時間に、読み語りさせていただいたのが最初です。それ以降、年々、発展してきて、次の年には、1年生から3年生まで全クラスで、毎週水曜日の朝の会で読み語りさせていただくようになりました。

現在の形態になりましたのは、平成16年、今から4年前です。1年から6年生まで全学年、毎週水曜日、授業が始まる前の朝の15分間、現在は14クラスありますので14人が分かれて、各クラスに入りまして、朝の会の時に読み語りをしております。

それから、いきいき放課後事業でも読み語りをしておりまして、これは第2水曜日、第4水曜日に約30分間、おはなし会をしております。

それ以外にも1時間頂戴しまして、45分間なんですけれども、年間のおはなし会として3つのことをしております。まず、平和をテーマにということで、6、7月の夏休みの前なんですけれども、これは高学年だけなんですけど、「戦争のおはなし会」という、戦争の絵本ですとか詩とかそういうものを、子どもたちに読み語っております。

次は、「読書週間のおはなし会」ということなんですけど、これは低学年で、それぞれ45分ずつやっているんですけれども、読書週間と一応書いておりますが、読書週間中というのは行事が非常にたくさんありますので、11月から3月までの間で、先生方のご都合のいい時間にさせていただいております。

そして最後のひとつは、2月なんですけれども、「6年生を送る会」ということで、6年生のPTAのボランティアが中心となって、6年生のために、これを最後に読んで送りたいというような本を選んで、おはなし会をしております。

現在、メンバーは40人くらいですけれども、実質、活動しておりますのは30人くらいだと思います。

今年、平成19年度は、はぐくみネットのモデル校事業としまして、市教委から多くの支援をいただきましたので、いろんなことができました。平成19年度の特別活動について、これから、9点にわたって、ご報告させていただきます。

去年、4月6日の入学式の時に、「新一年生のためのおはなし会」というのをいたしました。これは、入学式の時に、親が説明を受けている間、子どもたちは、各教室に帰ります。その時に、15分くらいなんですけれども、クラスにそれぞれ入りまして、おはなし会をしております。それで、「ようこそ神津小学校へ」ということで、本を読んで「みんな、毎

週、朝になったらおはなし会ありますよ」ということを紹介します。

それから、6月にPTA予算総会っていうのがあるんですけども、予算総会に親が出席している時は、子どもはもう家に帰らないといけないんですね、ところが低学年の親御さんは、子どもを置いては行けないということで、出席人数が少なかった。それで、学校からの依頼があって、「予算総会時の子どものケア」ということで、運動場で遊ぶ子どもたちをちょっと見ているとか、多目的室を借りまして、おはなし会をするというようなことをやっております。

特別活動の3番目ですが、これは中学校での活動ということです。校区の中に新北野中学校という中学校がございます。この中学校に、神津小学校と田川小学校、塚本小学校という3つの小学校から子どもたちが進学するんですけど、この3つともに読み語りグループがございますので、他の2校のグループとも協力いたしまして2つの事業を行いました。

1つは、「中学生の読み語りボランティア支援」ということで、夏休み前に、小学校のいきいきで読み語りボランティアをしませんかという募集をかけます。そうすると、何人か中学生が応募してくれましたので、その中学生に、本選びとか本を読むとかの支援をして、夏休み中に、いきいきに来てもらって、本を読んでもらうという事業をしております。これは、とても小学生にも中学生にも大きい影響があったんじゃないかと思っております。小学生の方は、ついこの間までいたお兄ちゃんやお姉ちゃんが、本を読みに来てくれますので、私たち大人が行くよりも、とても熱心に聞いてくれるんですね。実は、うちの学校はクーラーがないんですけれども、みんなシーンとして、お兄ちゃんやお姉ちゃんたちに注目してくれるので、とても小さい子どもたちにもいいなと思ったのと、中学生自身も、いろいろ本を探してくれますし、本も読んでくれますから、ボランティアの楽しさというのを知ってもらえるんじゃないかと思っております。本を選んで練習するのって結構大変で、苦労するんですけど、それを子どもたちの前で読むと、なんか子どもたちから力をもらうというのは、私たちボランティアがいつも感じることなんですけれども、それと同じことを、中学生も感じてくれたんじゃないかなと思っております。

もう1つの中学校での活動として、「中学生のためのおはなし会」をしております。

今年で3回目ですけれど、10月24日に開催いたしました。今年は、少し、中学生の範囲を広げまして、今まで中1だけだったんですけれども、3回目になりますので、中学1年生、2年生、全クラスで11クラスありますが、その11クラスにボランティアを2名ずつ送りこみまして、1人の持時間を20分ということで、合わせて40分くらいですので、大体、それで1時限が終わります。

その20分の持ち時間のうち半分の10分で絵本を読み、残りの10分で、これは、今日の趣旨にも合うかなと思うんですが、子どもたちに読書をしてもらいたいので、読んだ本に関連する本を紹介するというのをいたしました。あらかじめ、中学校の図書室に行きまして、関連する本を先に探しておきまして、おはなし会の時に、「この本は中学校の図書室にありますよ」というふうに見せます。

そして、そうでない本は、「この本は淀川図書館で借りられますよ」ということをそれぞれボランティアに言ってもらいます。そして、その書いたリストを各クラスに残してきてもらうということをしました。中学生は、とてもよく聞いてくれました。皆さん、環境問題から差別の問題から昔ばなしからいろいろ紹介をしてくださいました。子どもたちは、とても喜んでくれたと思っています。

特別活動の4番目、今年のメインの事業ですけれど、絵本作家の川端誠さんに、神津小学校で講演会をしていただいたことです。「作家訪問」ということを企画し、これは、なかなか大変なことなんですけれども、ありがたいことにはぐくみネットのモデル校の事業とさせていただきますので、市教委のご協力をいただきまして、川端誠さんに来ていただくことになりました。

川端誠さんは、落語シリーズですとかサボテンマルチですとかおばけシリーズですとか、子どもたちにとっても人気のある作家です。川端さんは「開き読み」とおっしゃっていましたが、4年生から6年生まで、各学年それぞれにご自作の絵本を読んで聞かせてくださり、おもしろい話もしてくださいました。そして、午後は一般向けに絵本ができる過程ですとか、ご自分の絵本に対する思いや姿勢、そういったことを語ってくださいました。

川端さんは、作家がものを作るということを、とても大事にされている方だということが、私たちのような大人だけじゃなくて、子どもたちにも伝わったと思います。この講演会をします前後に、子ども

たちには、川端誠さんの本を読み聞かせたんですけれど、講演会が終わった後、「あのおっちゃんが、この本、書きはったんや」という、その親しさは勿論あるんですけれど、本の絵の見方、細かいところまで絵をじっくり見られるようになったとか、言葉の表現の中のこの部分はこうかな、とかというふうにもいろいろ質問してくれたりとか教えてくれたりするんですね。子どもたちにとっては、とても大きいことだったんだなと思って、感謝しております。

5番目は、メンバーのためのスキルアップ講習会です。今年、年間5回させていただきます。

1回目の講習会は、4月の初っ端なんですけれど、読み語り全般の注意事項ということのをテーマにいたしました。なにわ語り部の会の鏑栄美子先生に来ていただいて、お話をさせていただきました。4月ですので、古い人も新しい人も、これから始めようと思っており、とても大事なので、必ず4月くらいに、どなたかに来ていただいて、講習会をしています。

2回目は10月10日に行いましたブックトーク講習会です。これは、先ほど説明しました中学校でのおはなし会のために、ブックトークをどうしてもしたいということで、実はブックトークの経験をしている人が、ほとんどいなかったのので、淀川図書館の藤井館長さんをお願いして、こういうふうなブックトークをしたらということをお教えいただきました。教えていただいて、すぐにそれを持って行ったんですけれども、大いに助かりました。

そして、1月の23日にも館長さんに来ていただいて、講習会をしていただきました。レジュメには、1人読み語り講習会と書いておりますが、私たちは、1人で朝の15分、各クラスに入って、子どもたちに本を読み聞かせて帰ってくるのですが、そういう時の注意事項やアドバイスとか、こと細かいことを教えていただきました。

3回目、これは1月16日の講習会なんですけれども、加藤啓子先生に来ていただいて、絵本の紹介をしていただきました。どんな本があるかということを知ることがとても大事なので、実際に、加藤先生にきていただいて、こんな本もあるよ、あんな本もあるよということで、お勧めの本とか、おもしろい本に関する話を聞かせていただく講習会をいたしました。

5回目は、最後のスキルアップ講習会です。私たちは、年間、最低7回のおはなし会を学校ですべておこなっています。そのおはなし会は、絵本や紙芝居、詩など

を組み合わせてしていますので、おはなし会の組み立て方ということを中心に、講習会をしていただきました。これは中央図書館の小前係長と山崎さん、グループまじょ魔女の牧野さんにも来ていただきました。

特別活動の6番目ということになりますが、今年は、はぐくみネットのモデル校になりましたので、市教委から依頼されて、いろいろなはぐくみネットの講習会で、おはなし会とかスキル講習会というのを4回させていただきました。5月31日には、隣のこども文化センターで、「ストライプ」という絵本を上演させていただきました。6月8日は阿倍野市民学習センターで、「ことりをすきになった山」というのを上演させていただきました。

「ストライプ」の方は、会場が、非常に広うございましたので、今日のようにプロジェクターを使ってやりました。「ことりをすきになった山」は阿倍野市民学習センターの方がもう少し狭かったのですが、実際に本を開いてさせていただきました。いずれも著作権の問題がありますので、必ず、上演する前には各出版社に著作権の許可を得るようにしています。

それから、11月18日は、梅田の総合生涯学習センターで、「読み聞かせのこつを学ぼう」というテーマで、私たちが講師となりまして、読み聞かせのこつをお教えるという、ちょっとおこがましいことをいたしました。市教委に、ちょっとおこがましいんじゃないかと申しましたら、「誰でも読み語りができますよということをコーディネーターの方に言ってください、敷居が高いとなかなかしてくださいませ」ということでしたので、「私達でもできています」というところをお見せして、講習会をさせていただきました。

最後は、2月23日のはぐくみネットのフォーラム、これは、北区民センターであったんですけども、神津小学校の取り組みを紹介して、「さっちゃんのまほうのて」というのを、プロジェクターを使って、上演させていただきました。1人だけ、右の方に背広を着ている方がいらっしゃいますが、この方は、うちの学校の校長先生です。うちでおはなし会をするときは、校長先生に出ていただくことが結構あるので、校長先生が今年、退職されますので、最後に、大きい舞台上、ご一緒させていただきました。

7番目としまして、これは読み語りの広報活動といえますか、読み語りを広げていこうということで、メディアから、出演の依頼がありましたので2つ受

けました。1つは毎日放送ラジオの「ばんばふみおのお大阪大発見」という番組で、先日2月27日の日曜日の朝8時から8時半の放送だったんですけども、はぐくみネットの中の読み語りの取り組みということで、ばんばさんが学校に来てくださって、子どもに読み聞かせているところを録音して下さったり、子どもにインタビューして下さったり、私たちにも、いろいろインタビューして下さったり、そういう楽しい会でした。

もう1つ、これも最近なんですけれど、2月21日の大阪日日新聞に、はぐくみを取り上げた記事なんですけれども、うちの学校が、はぐくみの中で読み語りをしているということで取り上げていただきました。

特別活動の8番目です。実は、淀川区というのは、読み語りの非常に盛んなところなんです。17小学校ありますが、そのうち14小学校で、独自の読み語りグループを持っています。そして朝の会の読み語りとか、お昼の時間とか、いきいきで活動されています。

丁度、4年くらい前に、平成16年の6月くらいなんですけれど、いくつかグループがあるのがわかっておりまして、近所で、たくさんしてはりますので地域交流会でもせえへん、ということになり、レジュメにはたいそうに提唱と書いてますけれど、そんなんと違くて、近所で地域交流会しようということになりまして、読み語りグループの地域交流会というのをやっております。

初年度だけ3回したんですけども、以降は、6月と12月の2回ずつで、第9回を12月7日に淀川図書館で行いました。オブザーバーとしてグループ以外では、淀川図書館の館長さんに来ていただいたり、それから、なにわ語り部の会の銚さんに来ていただいて、いろいろなお話をしたり、意見交換をしたり、情報交換をするという、そういう場を設けております。

最後の9番目に書いております低学年図書室の蔵書目録づくりといたしますのは、丁度、1年前で、平成19年度の活動ではないんですが、うちの学校は低学年図書室と高学年図書室の2つの図書室がございます。その低学年図書室の蔵書目録をボランティアで作りました。4~5千冊あったと思います。それを全部取り出して、コンピュータに入れました。どうしてそんなことをしたかと申しますと、子どもに本を読んで、この本は学校にありますよ、この本の

この作者の本は学校にありますよということを言いたいんですけども、いかんせん蔵書目録がなかったものですから、教えることができません。なければ作ろうということで作りました。

今年の春休みは高学年の方に挑戦しようと思うんですが、低学年は、一遍で全部できましたけれども、高学年図書室は蔵書が多く、また、春休みにしか全冊集まりませんので、数年かけて目録づくりをやってみようと思っております。こういうところがうちの学校の活動です。後は、レジュメに書いていませんが、出前ということで、よその学校からボランテ

ィアを立ち上げたいから読みに来てくれないかとか、この間、どこそで見ただけで、良かったからやってくれないかということで行かせていただくことはあります。

座長 ありがとうございます。

以上で報告を終わらせていただきます。

では、次に、助言者として来ていただいている先生方に、ただいまの報告を聞いてのご意見、ご感想なりお願いいたします。

○ 意 見 交 換

①学識経験者からの助言

脇谷邦子（同志社大学嘱託講師）

これまでの報告を聞きまして、正直ちょっと感心しました。と申しますのは、大阪市ってすごく大きな市ですよ、小さな市では、帰属意識が皆さん強くなるので、ボランティアさんの参加ということでは、まとまるというのは知られていると思うんですけど、これだけ大きな市で、各区の図書館とボランティアさんが連携して、今日発表されたような、いい報告を聞いて、すごくよかったですと思います。図書館の努力、取り組みというものが、なかなか大きなものがあるんだろうというように思いました。

私がちょっと気になりましたのは、学校図書館のことなんですけれども、学校図書館がボランティアさんの協力で開館できるようになった。図書館がちょっと動き出した。開館時間が増えたということは、とてもいいことではあると思うんです。けれど、先ほどからの報告なり資料を見ましても、多少は、地域によってばらつきがある。それは、各学校、地域の状況で、十分な数のボランティアさんがいる所とそうでない所が出てくるのは当然で、仕方がないことだろうというように思います。

公共図書館は、わざわざ行かなければならないとか、家族が連れて行ってくれないとか、交通費がいるとか、いろいろあるんですけど、学校というのは、子どもが、一番長い時間をそこで過ごし、毎日、行く所なので、そこでの取り組みというのは、子どもの読書活動推進に、すごく大きな役割を果たすと

思いますので、とても大事なことだと思っています。そういう中でボランティアさんの協力で学校図書館の開館時間が増えた。それで、子どもの、本を読む喜びということにつながったということは、評価できることだと思うんですけど、学校によってばらつきがあります。どの子どもたちも、本を手取る、読書を喜ぶということにおいて、同じような結果が得られるように、教育委員会としての主体性を持って、弱いところにはなんらかの手を打つなりということを少し考えていただきたいと思います。

それと、今、成果が上がっていることがはっきりわかるよう、学校図書館の利用がどのくらい伸びたとか、蔵書数の伸び、開館時間がこれくらい増えたというようなデータをこういう場で用意していただけたら、より明確になるのではないかと思います。

それから、ちょっと気になりましたのは、学校図書館と非常に連携されているんですけど、この実施校の中には、盲学校、聾学校、養護学校というのが含まれていません。すべての子どもたちにとのことですので、できれば、次のステップの段階で、いわゆる読書の喜びを享受することが困難などいいますか、盲学校、聾学校、養護学校の子どもたちにも、読書の喜びが行き渡るようなことを、次のステップとして考えていただきたいと思います。

今日、中学生の読み聞かせボランティアという報告を聞きまして、非常に良かったと思うんですけど、読書推進活動計画の対象は中学生、高校生まで18歳までになっていますので、中学校との連携、取り組みがまだまだ弱いので、これも、次のステップ

として、中学校、それからさらには高等学校、いわゆる思春期の子どもたちにとって、読書ということがすごく大事だと思いますので、そういう思春期の子どもたちへの取り組みということも考えていただけると、この活動計画の取り組みが、より実効性といえますか、成果が上がるのではないかと思います。

松田裕子（全国学校図書館協議会学校図書館活動推進委員）

それぞれの報告を聞かせていただきまして、今日は、とても嬉しい気持ちで帰れるなと思いました。実を申しますと、昨年、準備会に寄せていただきまして、その時は、もっともっとしてほしいな、もっともっと理解を欲しいな、ここに来ているボランティアの人たちの願いが、一般市民の方たちにどれだけ届いているのだろうか、学校に届いているのだろうかというような疑問を持ちながら帰りました。

今日は、校長先生もいらっしゃっておりますし、また、モデル事業で、こういうこともやっていますよということも聞かせていただきました。こうした活動が、徐々に、広がっていくのではないかとということで大変嬉しく思いました。

今日、いろいろなおはなしを聞かせていただきましたが、読書が好きになる環境づくりには、場の設定と人の設定といえますか、人的環境づくりが大事ではないかなと思います。

場につきましても、蔵書数やあるいは図書館内のこととか、いろいろな問題がまだまだあります。大阪市の小学校の蔵書数は、標準から言いますと、本当に読める本は、半分くらいしかないんじゃないかと思えます。また、昨年は、廃棄の話も出たと思えますけれども、廃棄をきちんとやっていない学校も、まだまだたくさんあるかと思えます。さらに先ほど、図書館の位置や広さについてお話がありましたが、もっと広がったら「絵本の部屋」が出来るのではないかと、ボランティアさんが活動しやすいような部屋もできるんじゃないかと等々、夢がもっと広がること、まだまだあるんじゃないかと思えます。

そういう点では、大阪市の小学校の図書館の現状は、厳しいところがあると思えます。人の面につきましても、ボランティアの方々が、すごく熱心に活動していただいておりますので、小学校の図書館も読書活動も、徐々に良くなっているのではないかなと思っております。

今日、私が、一番、嬉しいなと思えたのは、最初にもふれましたが、小学校の校長先生に来てい

ただいたということです。学校自身が、校長先生自身が、そして、教職員自身が、図書館に目を向けてくださるようになった一歩が出てきたんじゃないかと思っております。

ボランティアの方々の先ほどからの発表を聞いていますと、自分たちがやっていくんだ、ボランティアをすることは、楽しいことなんだというようなことで、ボランティア自身が自立をし、ボランティアをすることに、喜びを持ってやっていこうという姿が見られます。これが、本当の姿ではないかなと、すごく嬉しく思いました。

それを支えるためには、今、脇谷先生もおっしゃられましたが、やはり行政がどうすべきか、行政としての役割を果たすということが大事だと思います。

いろいろな話の中に、公共図書館の支援や助言、協力をいただいたということがたくさん出てまいりました。公共図書館も、そういう意味ではボランティア活動あるいは学校を支援するためには、どのようにしていったらよいかを考える必要があると思えます。直接、小学校に出かけて行って支援することもあるでしょうし、あるいは、先ほどから出ておりましたボランティアのスキルアップのための講習会や実技の支援もしなければならぬでしょう。それが、各学校独自で、できたらよろしいですけども、やはりできないということになりますと、それをコーディネートすることも必要じゃないかと思えます。

それともう一つ、これだけたくさんボランティアの方々が、今日ここに来られています。発表はされておられませんけれども、いろんな所で、工夫していることや、あるいは、こういうことで困っているがどうしたらよいだろうか、こうしたらすごくよくなった等々の知恵が一杯あると思えます。そういう点で、今、神津小学校から、中学校区での実践について報告がありましたように、地域で交流・連携を進め、それを、大阪市全体として情報交換できるような場を、これからも作っていくことが必要だと思っております。

このように考えますと、子どもたちの読書活動を活発にするためには、まだまだ、工夫する、創造して創っていく余地が多々あると思っております。

最後になりましたけれども、毎年5月に、全国学校図書館協議会と毎日新聞社が協力しまして、子どもたちの読書活動に関して全国的な調査をしております。

その中で、小学生が5月の1ヶ月間に読んだ本の平均が9.4冊ということで、9冊以上は読んでい

るといふ報告があります。これは昨年度とほとんど変わっておりません。また、中学生も読書量が増加しています。

子どもたちが、本が好きになったとか、本を読むようになったとかという声もたくさん聞いております。また、学校にボランティアが入ってきたというのが半数近く、全国的に増えておりますし、朝の会、朝の読書タイム、あるいはお昼の時間に、全校一斉の読書タイムを設けている学校も、全校の2/3くらいに増えております。

皆さん方のご協力を得ながら、学校もそして子どもが、読書好きになる環境が向上してきたのではないかと考えております。

ますます、これからも、子どもたちのために、読書環境を整えていただきたいと思います。今、読書を好きになった子どもたちが、中学生、高校生、大人になり、また、次世代の子どもたちに還ってくると思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

②大阪市PTA協議会、大阪市生涯学習推進員協議会からの発言

松岡義博（大阪市生涯学習推進員協議会運営委員長）

私共、大阪市生涯学習推進員協議会といたしましては、コーディネーターということで、どのようにしたら読書活動を推進していけるのかということを考えてながら、今日も聞かせていただきました。私共も昨年、準備会に来させていただきまして、その帰りに、浪速区の図書館の館長とお会いしまして、今度の文化祭に出てくれないかということで、いろいろ話をさせていただきました。

生涯学習推進員協議会は、24区でいろんな発表会をやっております。皆さんに、参加していただいて、どんどん発表していただいたら情報の発信になると思うんです。生涯学習というと、どちらかといえば文化的な方が多く、皆さん方と特に合うんじゃないかと考えております。発表会とか文化祭とか、そういうような場で、皆さん活躍していただければいいかなとっております。

昨年の11月16日に、第1回の浪速区子どもの読書活動推進連絡会に参加し、話を聞かせていただきました。学校図書館支援モデル校といたしまして、日東小学校というのがあるんですけれど、そこでも毎朝、6年生が、1年生に読み聞かせをするという

ことで、やはり、松尾さんがおっしゃっていたように、かぶりつきのように子どもが聞きたいんですね、そのようになっていきますと、その1年生が次に2年生に上がった時に、必ず図書室に走るということで、読書活動が推進されている様子を聞きました。

そういうようなことを聞きまして、我々も、どこかで協力できるのではないかと考えました。市全体でも、活動発表会というのをするんですけれども、その場で皆さん、また、子どもも含めながら、やっていきたいと思っております。

我々、推進員協議会といたしましては、開かれた学校づくりと子どもから高齢者までと一緒に学べるという場を設定しておりますので、私たちも、スキルアップをしながら、どんどん皆さんに協力していきたいと思っております。

今日も、皆さんの報告を聞きながら、すごいなと思ったんですけれど、昨年と比べて、すごいパワーアップしてるやなということで感心しております。今後とも協力していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

松井芳春（大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長）

副運営委員長の松井でございます。今日、出席させていただきまして、このような子どもの読書活動の推進、ボランティアの皆さんの活動、また図書館のご苦労など、話を聞きましてすごく感心させられた次第です。

先ほど委員長も言いましたけれど、生涯学習ルームは、ここ2、3年、地域の子どもたちと一緒に活動するということをすごく言われています。自分たちの趣味で活動するだけではなく、その活動で得たものを地域で発揮する、また、子どもたちと一緒にするというのが基本になっております。ということは、まさに、読み聞かせ、読み語りともいうんですか、こういった活動が、私たちルームにとっても必要だと思います。

私は、住之江区なんですが、住之江区の安立小学校なんですけれど、読み聞かせ講座というのがありまして、学校で、放課後か給食のときでしたか、読み聞かせを子どもたちにしてあります。住之江区でも、多分、うちの学校だけだと思うんですが、他の区でも、そう多くはないと思っております。子どもたちに対する読書活動といいますが、読み聞かせ、読み語りをもっともっと推進していったらいいんじゃない

かと思ひます。私共は、運営委員をしていますので、
どんどんこういうのがありますよという宣伝をして
いきたいと思ひます。

香川婦美子（大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長）

副運営委員長の香川でございます。私は、副運営
委員長をしておりますけれど、地域に帰れば、西淀
川区の生涯学習推進員協議会の代表をしております。
まだ、ちょっと疲れているんですけども、先週の
8日、9日に、西淀川区でフェスティバルを開きま
した。1年間の集大成ということで、舞台発表をし
たり、いろんなことをしました。

また、今年、始めて、地域との連携ということで、
子どもたちを巻き込んでのプログラムを考えました。
今までのようにプロを雇ってというんじゃなくて、
ちょっと違うものやってみようかということにな
り、区役所とも一緒にやらせていただきました。

地域のだんじりの子どもたちとか、ジュニアキッ
ズの子もたちに体操してもらったりとか、また、
その幕間、幕間には、西淀川図書館で活動されて
いるパタポンのボランティアの方たちにおはなしを
していただきました。パタポンのボランティアの方
たちの中にも、私たちと同じ生涯学習推進員がたく
さんいらっしゃいます。

パタポンの方たちには、元々は、幕間、幕間に手
遊びをしてもらおうということになっていたのです
が、だんだん、日にちが近づいて来ましたら大きな
ことになってしまいまして、おはなしというように
伝わってしまつて、ちらしにもおはなしをしてもら
いますというふうに載ってしまいました。

ボランティアの方たちは、そんな聞いてない、
困ったなあという感じだったんですけども、フェ
スティバルまで後2、3日しかなかったのにもか
かわらず、見事に当日、昔のおはなしなどをしてく
ださつて、本当にすばらしいなと思ひました。

先ほど聞かせていただいた鶴見さんの報告に、参
加者が28名というのがございましたけれど、もつ
たいないなと思ひます。鶴見区にも生涯学習のフェ
スタがございますので、どうぞ、その時にご一緒
にドッキングなさつたらいかがでしょうか。西淀川
では、250人から300人入る会場でやっております
けれども、鶴見区でも同じような大きさの会場かと思
ひます。小さい子どもたちも、みんな、喜んで聞
いてくれますし、たくさんの方に聞いていただけると
思ひます。

今回の西淀川のフェスティバルでは、図書館でボ
ランティアされている方に、最初からお願いしてい
たんですけども、ボランティアの方たちは、始め
は、そんなんできへん、そんな大きい所ではでき
へん、読み聞かせは小さい所ですのよと言つておら
れたのですが、そんなことない、どうにかしましょ
うよということでご一緒させていただき、本当にす
ばらしい舞台で、盛り上げていただきました。

私たちは、生涯学習もはぐくみもやっております
ので、そこで、ご一緒してはどうでしょうか。こち
らから、お願いに上がることもあるかしれませんし、
そちらからも、何かの時に、ご一緒しませんかとい
うふうなことをおっしゃつてくださつたら、私たち
がやっている会もいいものになるかなと思つており
ます。これから、一緒に手をつないで、いろんな方
面で活躍していただきたいと思つておりますので、
どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

西岡義治（大阪市PTA協議会会長）

大阪市PTA協議会会長の西岡でございます。P
TAの役員をしておりますので皆様方とは、少し捉
え方が違うと思ひますがよろしくお願ひいたします。
先ほど報告のありました大正区の泉尾東小学校さん
の件なんですけれど、教育委員会としては、問題が
数々あるかとは思ひますが、なぜ、その図書室を、
子どもたちにもっと目が行き届く方へ移すことが
できないのか、委員会の担当にお伺ひすることは
できるかと思ひます。

私は、鶴見区におりまして、先ほどの生涯学習の
関係で、もし必要があれば紹介させていただきます。
「愛Loveこどもフェスタ」の話もありましたが、
今度も、区民センターの小ホールで人形劇をされま
す。午前と午後というように聞いていますので、そ
の間の時間を使うことは可能だと思ひます。すで
に内容が決定されているかもしれませんが、午前と
午後の上演の間に組み入れることはできると思ひ
るので、よければ、これも紹介させていただきます。

こういう読み聞かせというのを、保護者である私
たちが、本来、やつていくべきだったと思つていま
す。今、皆さん方のようなボランティアの方々に、
読み聞かせをやっていただいているということにつ
いては、やはり、保護者として、私たち本当に感謝
といひますか、恥ずかしい思ひといひますか、その
両方で、今、ここに座つております。

大変だとは思ひますが、子どもたちには、読み聞
かせというのはすごく大切なことだと思ひますので、

今後も、今の活動を続けていただくようお願いいたします。また、むずかしいことも、皆さん方でお知恵を出していただいたら解決できることも多々あると思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

平井さより（大阪市PTA協議会副会長）

大阪市PTA協議会副会長の平井でございます。4区の意欲的な活動のお話を聞かせていただきまして、自分も、改めて、がんばらないと、という刺激を受けました。参考になるお話し、いろいろありがとうございます。

おはなしを聞いていまして思いましたのは、やはり、皆さんが、いろいろ知恵を出し合って考えた活動を、広く周知して、参加していただくにはどうしたらいいかなというのが一番の問題ではないかということです。ちょっと思ったんですけど、各区にこの読書活動推進連絡会というのがありますが、そこにPTAの方が誰か参加しておられるんでしょうか。（5人挙手）

あまりPTAには周知されてないんですよ。各区にもPTA協議会というのがありますので、そちらの方にお話しいただきまして、どなたかPTAの代表で出ていただいて、各学校に皆様の活動を広く周知できるような体制が整えればと感じました。その点もよろしくお願いいたします。

それと中学生の娘が今いるんですけども、神津小学校さんの中学生に対する取り組みっていうのは、すごく感心するというか、目からうろこのようなものがありました。中学校でも、総会の時とかは、保護者の出席者がすごく少ないので、やはり中学生の保護者の方も、幼稚園の子どもさんがいるとか、小学生の子どもさんがいるとか、いろいろな環境があると思いますので、中学校のほうの総会にもちょっと活用させていただけたらいいなというふうに思いました。ありがとうございます。

全体を通してですが、親と申しますか、私たち大人が一生懸命になれば、子どもたちの心の中に何か届くものがあると、私は、子育てをしながら今、特に感じております。

座長 ありがとうございます。

今のご助言、ご意見に関連しまして、先に事務局からお願いします。

事務局 事務局から2点について申し上げます。

1点目は、脇谷先生からありました、学校図書館の取り組みの地域的なばらつきについて、教育委員会として何か考えるべきということでもありますけれど、学校図書館支援モデル事業の成果に基づきまして、20年度からの3年間で、学校図書館活性化事業という位置づけをしまして、全校に広げていきたいと考えております。具体的には、今年度までの48校に加えまして、20年度は、48校を新たに増やしていく、22年度には、全小学校に広げていきたいと考えております。

もう1点は、区の読書活動推進連絡会に、PTA協議会の参加をもっと呼びかけてはということですが、区の生涯学習担当と連携をとってございまして、そちらから、区のPTA協議会あるいは生涯学習推進員連絡会へお声をかけていただいて、参加できる場所から参加していただいております。今日の報告にありました各区でのいろんな取り組みを、それぞれ持ち帰って報告していただくことによって、また区役所と連携しながらさらに呼びかけはできるかと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

③各区代表者からの質問、意見

吉田多恵子（都島区連絡会代表）

都島区の吉田と申します。今日は、素晴らしい実践のことを聞かせていただいて、すぐこれを持ち帰りたい、区の推進連絡会で報告したいなと思えました。

先ほど、脇谷先生の御発言の中にありました、読書環境にいろんなデメリットを持っている養護学校の方もぜひ、次回の会議には呼んでいただきたいなと思えました。

これは、区の取り組みとはまた、違いますが、私たち、シフカブールカというグループなんですけれど、養護学校に呼ばれておはなし会に行ったことはございます。それから、これは大阪市でないのがとても残念なんですけれども、堺市のほうでは、かなり前から、盲学校でおはなし会がなされています。目の見えないお子さんが、普通の健常のお子さんよりも、もっと、くいつくような形で、おはなしの世界に入るといことは本当によく知られたことだと思いますか、こういう取り組みがあるということも大阪市の他のグループの方にも知っていただきたいと思います。

それからもう1つ、都島区には、大阪市立総合医療センターという大きな病院がございます。シフカブールカは、その院内学級に、院内ボランティアとして、かなり前から、長期入院の子どもたちがいる小児病棟に、おはなしあるいは読み聞かせに行っております。現在は、都島図書館と北図書館の司書さんとシフカブールカとで年に3回院内学級に行っています。

先日、たまたま、初めて、その病院で、ボランティアさんグループと院内の副院長さんですとか、ボランティアさんの中に入れていこうじゃないかという取り組みを考えていらっしゃる看護師長さんとかで交流会をもちました。その時に感じたことは、子どもたちのために、ボランティアさんを入れていこうという気持ちがおありの方がまだごく少ない、大阪市では、それがまだ一般的ではないことを知りました。

全国的には、ボランティアさんが、子どもたちのために読み聞かせをする、病院内ですということ、最初からしていた病院が数多くあるらしいんですけど、大阪市ではそうではなくて、管理上の面などから、逆に、ボランティアさんを入れないというところがありました。

長期入院して、本に出合うことが、楽しいことになる、もしかすると、長期入院をしたがために、他の子どもたちより、本に接することが多くて、本が好きな子どもになる、長期の入院が、いい方向での本との出会いになる可能性も秘めた子どもたちに、ぜひ各区の図書館の方たちが、たとえば、団体貸出を積極的にしていくとか、そういった取り組みもあったらいいなと思います。

事務局 今のお話に関連しまして、図書館で把握しております事例をいくつか報告させていただきます。阿倍野図書館とボランティアの皆さんとで大阪市立大学の附属病院に定期的に行っていただいています。他に、城東区の東大阪病院に、子どもということに限らないんですけど、入院されている方への図書の貸出をずっと続けていますので、そういう事例を、こういう場で皆さんにお知らせしていくようなことが必要だな、と改めて思っております。

他に、中央図書館にも、布の絵本作製のグループや対面朗読をしてくださっている方、旭図書館に布の絵本を作ってくださいの皆さん、城東図書館には点訳絵本を作ってくださいの皆さんがおられ、また、中央図書館を会場として開催されています「お

はなしたのしいでえ」の中で布の絵本やさわる絵本を紹介していただく、などいろんな取り組みがあります。連絡会などでその活動をご紹介して、連携をもっと深めていきたいと思っております。

西淀川図書館長 西淀川図書館では、西淀川養護学校に、学期に1回、おはなし会に行くということにしており、2年くらい前から始めています。今のところ、年2回しか行けてないんですけども、今後、継続して、重点的にやっていくつもりです。

旭図書館長 旭図書館です。旭区には思斉養護学校と光陽養護学校があります。思斉養護学校は知的障害の子どもたち、光陽の場合はもっと重度な、ベッドのような車椅子を使っている子どもたちがいます。思斉養護学校では、小学部から高等学部まで、旭おはなしたい・すみれと絵本の会の方に担当していただき、おはなし会をここ2年連続で行いました。光陽養護学校については、どういう形のおはなし会ができるか、これから検討していただくということになっています。今は、ボランティアさんが、布の絵本製作のお手伝いをするとか布の絵本の展示をするとかという形での関わりしか出来ておりません。けれども、なんらかの形で、ボランティアさんのご協力も得ながら、障害のある子どもたちに、読書の楽しさを届けられたらと思っています。ボランティアさんたちは、プログラムを組むのにも困っていらっしゃるんですけども、毎年、果敢に実行してくださっていますので本当にありがたいことだと思っております。

渡邊裕美子（東淀川区連絡会代表）

東淀川区の図書館ボランティアとことこの渡邊です。今日、発表された淀川区さんと大正区さんのお話について、質問したいことがあります。私は、図書館のボランティアは、東淀川図書館で、結構長くやっているんですけど、今、私の地元の小学校で、今日発表されたような学校図書室で活動するというのを提案されていて、今日は、丁度いいお話が聞けたなと思っています。お話にあったモデル事業ではなく、はぐくみネットに近い方だと思うんですが、学校の子どもたちを支援するサポーターさんで、学校の図書室を自由に使って、何か活動をしてもらえないかということでした。

今日報告いただきましたモデル事業とは違った内容ですけども、モデル事業のようなことでも何で

も、好きなことをしていいということだったので、参考にさせていただこうかなと思いました。今、私たちの小学校は、たくさんのボランティアさんが入っているのですが、一番の悩みは、現在、子どもさんが学校に行っている現役の保護者さんの参加がないということです。OBの方とか地域の方とかが殆どなので、勿論、そういう方が、学校に入って、子どもたちと交流するというはすごく学校は喜んでくださっているんですけども、私達としては、保護者の方と一緒にしていきたいという思いもあります。

今、発表された淀川区さん、大正区さんの方で、ボランティアさんに現役の保護者さんがどのくらいいらっしゃるのかということをお聞きしたいのと、もし、たくさんいらっしゃったら、どうしたら入っていただけるのか、アドバイスをお願いいたします。それと、もう1つ、たくさんの質問で申し訳ないんですけど、先ほど、教育委員会の方が言われてました学校図書館の活性化事業というのは、どういうものなのか教えていただけますでしょうか。

松尾 佳美（神津小学校絵本のくに）

神津小学校では、PTAが自発的に始めたので、私もそうですが、元々はPTAが殆どでした。最初は、1年生から3年生までの8クラスでしたので、毎週8人+1人で、9人集めてくれと言われました。言われた時には、集まるかなと思ったんですけど、とにかく、PTAのボランティアの方に頼んで、誰でもいいからと片っ端から声をかけました。何度もちらしを配りましたが、学校で配っていただいたらして入ってこられた方は殆どいらっしゃいません。

「一本釣り」って言っているんですが、否応なしに「誰々さん、ちょっと来てくれへん」というふうにして始まりました。今は、勿論、地域の方もいらっしゃるんですが、個人的にお話をして、来ていただいているというのが殆どです。

うちはPTAが多いんですけども、どのくらいか数えたことはないんですけど、半数以上、60%くらいはPTAだと思います。ただ、PTAでも、年々、私もですが、子どもが卒業しますと、PTAも卒業していきますので、新しいお母さん方に入りたいと思っています。学校側と連絡するには、やはり、PTAの方の力というのは本当に大きいんです。

ですから、先ほど申しましたように入学式のときに活動してまして、入学式に来られるご父兄というのは狙い目です。わが子のために何かしようと、非常に、皆さん、深く考えておられますので、そういうところを集中的に狙って「入っていただけませんか」ということで働きかけています。一旦、入っていただきますと、6年間は、おられますので。

今枝 義啓（泉尾東小学校校長）

今、12名いますけれど、そのうち10名が現役のPTAで、残る2名がおばあちゃんと元PTA会員です。ちょっと話がそれますが、子ども見守り隊というのが、今、どこでもあります。本校では、発足当時から、PTAの方に入っていただくというスタンスできています。大半は地域の方ですけども、PTAの方も見守り活動に入っていており、結構、現役の方が加わってくれています。

ただ、こども見守り隊なんかでは、地域の方からは、現役は何してんねんというお叱りを受けることもあります。私は、お父さん方、お母さん方は、家の近所で、見送ったり、見守ったりしてくれているやから、それも1つの活動ですよと言っています。

現役のPTAは、忙しいということもあるし、やっぱり、大正区は、労働者の町なので、読書で御飯が食べられるのかという話になったら、食べられへんど、そこが、なかなか厳しいものがあるので、やれるところからやっていったらどうかと思います。いきなり学校から、何でもええからやってくださいと持ってこられても、ボランティアの方も大変で、先ほど言いましたように、何回かボランティア会議をやる中で、できるところから、また、少しずつステップアップしていかないと長続きしないんじゃないかと思っています。簡単な形であれば図書館開放からやって、今度は本の修理とか、次の年は、ボランティアの方に読み聞かせとかをというように、だんだん広げていったらいいんじゃないかと思っています。

事務局 学校図書館の活性化について、今ちょうど予算市会が開かれており、ご審議いただいているところなんです。昨年、一昨年と実施してきましたモデル事業の成果を全市の小学校に広げていこうというのが狙いです。事業の中身としましては、今、お話がありましたように、必ずこれをしてくださいということではなくて、子どもたちの身近なところで本をとということで、たとえば、開館時間の延長であ

るとか読み聞かせであるとか、それぞれの学校が取り組みやすいところから始めていただきながら、子どもの読書環境を整えていこうというのが、この事業の趣旨です。この学校では、これをやってるから、こちらの学校でもこれをやってほしいという形で、全部が一律に進んでいくものではありません。各学校のニーズ、状況に応じて、少しずつできるところから広げていく、息長く続けていく事業ですので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

駒崎順子（西区連絡会代表）

先ほどの養護学校のお話との関連で発言させていただきます。

まじょ魔法のメンバーの中に、障害児を持つお母さんが1人いてはるんですけど、その方と私は、西区おもちゃ図書館とって、障害児を始めとして、いろんな子どもたちがゆったり遊べ、また、その家族の交流の場をつくるという活動もしているんです。まじょ魔法で小学校の読み聞かせに行った時に、養護学級の前を通りすぎる私らってなんやねんやろなという話をしていました。

おもちゃ図書館のお母さんたちが、視覚障害の専門家を招いて勉強会した時に閃いて、ユニバーサルなおはなしの会研究会と名付けたんですけど、障害のある子どもたち、一人ひとりの心に届くおはなしの会のあり方って、どんなやろうっていうのを、専門家や障害児のお母さん、おはなし・読み聞かせの活動をやってはる人、このことに興味のあるいろんな人が集まって、勉強会をして、その中から考え出したものを作りあげて、子どもたちに届けにいけないようなことをやってみよう、子どもゆめ基金をもらってやってみようということになりました。

障害児のお母さんも、もし、ゆめ基金が通らんでもやろうと言い出してきて、今、ちらしを作ったりして、動き出しているところです。今日、もうすでに活動されている話を聞かせてもらったんで、これから、教えていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それと、子どもの読書活動推進連絡会というからには、子どもが、小学生、中学生、高校生が、この会議に参加できたらいいのになと、今、ふと思いました。

学校図書館のことについて、少し、お話しさせていただきます。読み聞かせのボランティアは、普通のおばちゃんでもできるという立ち位置でやらせてもらう分にはいいと思います。けれども、やっぱり

学校の図書館に入って、いろいろなことをやっていくということになったら、私たち自身が自らの立ち位置、私たちボランティアはどこまでやるのか、また、どこからが学校のやるべき領域なのか、そういうことを、ボランティアはボランティアで、もう一度しっかり考えたほうがいいんじゃないかなということ、これからどんどん進めていくにあたって思っています。

この間、府教委と千里にあります国際児童文学館主催の「10代の読書を考える」という講座に参加した時に、大阪府下や兵庫県下の学校司書の方とか公共図書館の司書の方とかが来られていて、交流会でいろいろお話をしました。私たちは、絵本のことは詳しいと思うんですけど、他の児童書とかヤングアダルトとかになっていったら、知らない本が一杯あります。そういう本のタイトルを出しながら、いい本をたくさん知っているけれど、実際の3、4年生とか5、6年生に手渡しにくいというか、子どもたちには届かないと、子どものことも本のことも思いながら悩みを出し合ってはる姿をみて、こんなに専門職の人っていうのは、すごいねんなと思いました。大阪市の学校図書館とか公共図書館に出入りして活用するくらいでは、なかなかそういう人たちに出会う機会がなかったんで、そのすごさがわからなかったんですけど、この間は衝撃的でした。

だから、私たちは、私たちががんばっていきたいけれど、学校図書室に専門職の人が入るということが、どれだけすごいことなのかということがわかったんで、学校司書配置の実現を頭に入れた上で、みんな考えていきながら、行政も市民もできることをやっていけるような会議にしていきたいなと思いました。

事務局 子どもたちの参加については、昨年もご意見をいただいて、そのような検討もしていきたいと申し上げておりました。この1年、具体的な取り組みを進めてきておりませんが、中学生のボランティア活動という淀川からの報告もありましたように、そういった、中学生なり、子ども自身が、ボランティア活動のようなこと、また、読み聞かせの活動なりについて、他の区でもいろいろ取り組まれている部分があります。そういう点も含めまして、子ども自身がどう考えているのかの吸い上げですとか情報の交流ですとか、何らかの形で広めていく、子ども自身に返していくというようなところがあるかと思

いますのでご意見を参考にしながら検討していきたいと考えております。

それから、学校図書館の活性化事業と関わってのご意見だと思いますけれど、ボランティアの領域というような観点なり、学校図書館自身の専門職なりの位置づけということのご意見だと思いますが、大阪市では、司書教諭についての発令は行われております。けれども、先ほどからも、お話がありましたように、なかなか、その専門性が発揮できない状況があって、学校図書館の支援モデル事業等でボランティアの方々の協力を得ながら、教職員も含めた学校図書館との関わりが、できるだけ広がっていくようにしながら進めつつあるというところではあります。

新年度からは、学校図書館活性化事業という位置づけとし、どんな形で広めていけるのか、ボランティアの方々に協力いただきながら、学校図書館支援の担当を設置して進めていこうと考えております。各学校の状況を把握しながら、いろんな取り組み、各学校で努力されている取り組みの情報がなかなか行き渡らないとか、モデル事業で、いろいろ工夫されている部分の情報交流も少ないというような声も聞いておりますので、今までの2年間で行われてきたモデル事業の成果が、各学校に行き渡ることによって、また、各学校の個々の状況はありながらも、いろんな取り組みが広まっていくことで、少し、ステージが変わっていくというふうに考えています。

ボランティアの方々から見ますと、遅々たる歩みかもしれませんが、まず、学校図書館の活性化という位置づけを行って、各学校の取り組みを教育委員会として吸い上げ、各学校に伝わっていくような形が、この2年間のモデル事業の中での成果をふまえた取り組みとしては必要かなということで進めていきたいと考えております。

皆様のご協力も得ながら、新しい活性化事業として成果が見られた部分については、皆さんに伝えられるような形で進めていきたいと考えています。その中でボランティアが果たすべき領域なり、学校が果たすべき領域というのが、議論できるのではないかと考えておりますのでよろしくお願いいたしますと思います。

中西由利（此花区連絡会代表）

学校図書館活性化事業についてなんですけれども、そうしましたら学校図書館の司書教諭の先生は、皆さん担任を持っておられます。図書館の司書さん専属という形には大阪市ではないのでしょうか。此花区なんですけれど、今、3校の学校の方に此花区の連絡会に出席していただいているんですが、その区の連絡会でさえも、忙しいので出にくいというのが現状です。学校の中に、私たちボランティアが入って行って、また、PTAからのボランティアが入って行ってという形でも、先ほどの大正区の校長先生のように、一緒になってくださる方ばかりではないと思います。

担任を持ちながらも一生懸命してくださっている学校図書館の司書教諭の先生方が、とにかく忙しいと、それもわかるんですね。私も小学校に子どもを行かせていますので、その立場もよくわかります。ですから、図書館の仕事をするために担任の仕事がおろそかになっては困るという先生の立場も、親の気持ちとしてよくわかります。そのあたりも活性化事業の中にどうぞ取り入れていただきたいなと思っております。よろしくお祈りいたします。

事務局 専属という形ではなく、これについては今まで司書教諭という形で12学級以上の学校に配置しておりますので、今、お話がありましたけれども、連携がとれますように進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

座長 今日はいろいろ報告いただき、ありがとうございました。去年の連絡会に比べますと、参加者の幅も広がって、具体的に各区で連絡会のもとにいろんな事業が進んでいるという思いがします。また、新しい事業を始めていきますので、今後とも、皆様にはいろいろとお忙しい中、お世話になるかと思っておりますけれどもよろしくお願いいたします。長時間にわたりまして今日はご苦労さまでした。

(敬称略)

大阪市子ども読書活動推進計画 -概要-

第1章 基本的な考え方

1 子どもの読書活動とは

子どもにとって読書とは、さまざまな世界との出会いであり、言葉を学び、表現力や創造力を豊かなものとするうえで欠くことができないものです。

2 推進計画策定の背景

子どもの読書活動に関する施策の総合的、計画的な推進を図るため、「子どもの読書活動推進に関する法律」が平成13年に施行され、同法によって国と地方公共団体は、子どもの読書活動の推進計画を策定・公表することが定められました。

3 基本的な方針

すべての子どもたちが自主的に読書に取り組むことができるよう、家庭や地域、図書館、学校が連携・協力し、子どもの読書環境の整備・充実、普及・啓発、人と本、人と人を結びつける人材の育成、地域・市民を軸とした読書活動の輪の形成に取り組みます。

第2章 推進のための具体的な取組み

1 家庭、地域における子どもの読書活動の推進

乳幼児にとって、大好きな人が自分のために語りかけてくれることは大きな喜びであり、人間への信頼感を築き、やがて言葉の獲得につながります。

ブックスタート事業の効果を高め、乳幼児と保護者が絵本に触れ合う機会が増えるよう、情報提供の拡充、継続的な働きかけに努めるとともに、子どもに身近な施設で読書を楽しめる環境づくりに取り組みます。また、各施設と子育てグループ、図書館間でネットワークづくりを図り、子どもの読書に対する理解を深めます。

2 図書館における子どもの読書活動の推進

子どもにとって図書館は、ひとりの利用者として、自由に読みたい本を選び、読書の楽しさを体験し、貸出などのサービスを受けることができる場であり、本の検索等を通し、求める資料・情報を見つかったり、豊かに広がる知識・情報の世界に触れられる場でもあります。

各図書館ごとに重点事業計画を立て、蔵書の充実や絵本や物語を楽しむ機会の拡充など、サービスの充実に取り組み、図書館が地域における子どもの読書活動推進の相談・支援センターとしての機能を果たします。また、各種講座や交流会の開催等、子どもの読書活動支援にかかわるボランティアの交流、支援に努めます。

3 学校における子どもの読書活動の推進

学校教育では従来から各教科等での学習を通じて読書活動が行われており、読書習慣を形成していくうえでも大きな役割を担っています。さらに、読書タイムや読みきかせの充実を図るなど、各学校が積極的に読書活動の推進・充実に努めます。

子どもの主体的な学習活動を支え、読書活動を通じて子どもの人間形成を育む場として、学校図書館の役割は極めて重要であり、学校図書館司書教諭が学校図書館の運営に十分な役割を果たすことができるよう、教職員の協力体制の確立、校務分掌上の配慮などに努めます。

家庭・地域が連携して子どもの読書活動支援に取り組む事例などを収集し、各学校へ発信するよう努めます。

4 子どもの読書支援活動への理解と意識の向上

図書館のホームページ上でコンテンツを豊富にするなど、さまざまな機会を活用し、市民への情報提供や子どもの読書に対する理解・関心が高まるよう努めます。

5 関係機関の連携・協力

子どもの「生きる力」の育成をめざすという教育改革の理念は、家庭や地域、学校が連携・協力して実現するものであり、地域社会の中で子どもを育てる教育コミュニティの再生を図ることが必要です。「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書を行うことができるよう」支援するために、家庭、地域、図書館、学校の連携を推進します。

学校図書館の活性化を図るため、学校と図書館との連携を強化し、学校と図書館の連携モデル事業等の研究を進めます。

図書館の幼児期読書環境整備事業について、対象施設の拡充を検討し、乳幼児親子が身近に絵本に親しめる環境づくりを目指します。

第3章 計画を推進するための重点施策

1 推進体制の整備

区レベルで、図書館、学校、子どもの読書活動推進にかかわる関係機関、読書支援活動ボランティア等で構成する「子どもの読書活動推進連絡会(仮称)」を設置し、市民参加による推進体制を整備します。

2 普及・啓発活動の推進

3 家庭、地域、図書館、学校における子どもの読書活動の推進

家庭、図書館や子どもの身近な施設、学校、のそれぞれが子どもが読書に親しむ機会の充実に努めます。

4 連携による子どもの読書活動の推進

子どもの読書にかかわるさまざまな施設が連携・協力しながら、子どもの読書活動を豊かにできるよう、図書館が積極的な情報収集・提供に努め、地域の子どもの読書活動の相談・支援センターとしての役割を果たします。

大阪市子どもの読書活動推進連絡会設置要綱

(設置)

第1条 「大阪市子ども読書活動推進計画」(平成18年3月策定)に基づき、本市のすべての子どもたちが、さまざまな機会と場所において読書の喜びを味わい、読書を通して生きる力を身につけていくことができるよう、各区で行う子どもの読書支援活動の連携を進めるため「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」(以下「推進連絡会」という)を設置する。

2 各区において学校や図書館その他の関係機関及び民間団体・グループが、それぞれの課題を理解しながら協力して取り組み、子どもの読書活動を推進するため、各区に「区子どもの読書活動推進連絡会」(以下「区の推進連絡会」という)を設置する。

(所掌事務)

第2条 「推進連絡会」は、次の各号に掲げる事項について協議を行う。

- (1) 区の「区の推進連絡会」での協議の集約に関すること。
- (2) 子ども読書の日(4月23日)記念事業他関係団体等が行う読書支援活動の状況把握に関すること。
- (3) 子どもの読書支援活動を推進するための広報啓発事業に関すること。
- (4) その他、子どもの読書支援活動推進のために必要な事項に関すること。

2 「区の推進連絡会」は、次の各号に掲げる事項について協議を行う。

- (1) 地域における子どもの読書支援活動に関する情報発信に関すること。
- (2) 施設間、団体間の情報交換や他の区の子どもの読書支援活動の紹介・交流に関すること。
- (3) 学校図書館支援モデル事業の進捗状況の報告に関すること。
- (4) 学校における子どもの読書支援活動についての情報の共有化に関すること。
- (5) 子ども対象の読みきかせやおはなし会、子どもの読書支援活動に関する講座の開催に関すること。
- (6) その他、区における子どもの読書支援活動推進のために必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 「推進連絡会」は、別表に掲げる団体等の代表者(推薦された者)により構成する。

2 「区の推進連絡会」は、各区内の図書館、学校、幼稚園、保育所、区役所、保健福祉センター、子ども・子育てプラザ、子育てサロンなど、子どもの読書活動に関わる関係機関の職員および読書支援活動グループ等の代表者の参加により、開催する。

(座長)

第4条 「推進連絡会」に、座長を置く。

2 座長は、「推進連絡会」の構成員の互選により選出する。

(「区の推進連絡会」の代表者)

第5条 各「区の推進連絡会」に、代表者を置く。

2 代表者は、各「区の推進連絡会」の構成員の互選により選出する。

(事務局)

第5条 「推進連絡会」の事務局は大阪市立中央図書館利用サービス担当に置く。

2 各「区の推進連絡会」の事務局は各区の大阪市立図書館に置く。

(会議)

第6条 「推進連絡会」は、事務局が構成員を招集して開催する。

2 各「区の推進連絡会」は、事務局が構成員を招集して開催する。

(施行の細則)

第7条 この要綱の施行について必要な事項は、事務局が定める。

附則 この要綱は平成19年 7月 17日から施行する。

(別表)

大阪市子どもの読書活動推進連絡会の構成

順不同

- ・ 各区の「子どもの読書活動推進連絡会」代表者
- ・ 大阪市PTA協議会
- ・ 大阪市生涯学習推進員協議会
- ・ 大阪市教育委員会事務局 生涯学習部
- ・ 大阪市教育委員会事務局 指導部
- ・ 大阪市立図書館
- ・ 学識経験者

平成 20 年 3 月 14 日

大阪市子どもの読書活動推進連絡会報告

平成 19 年度子ども読書活動推進事業について（市民学習振興担当分）

1 事業名 子ども読書活動推進計画の啓発推進事業

2 実施期間 平成 19 年 4 月 23 日～

3 実施場所 市内全小・中学校、図書館ほか

4 事業内容

子ども読書活動推進計画の啓発推進事業を行うため、子どものための施設ガイド『タッチ』（A5 変形版 16 ページ）に啓発記事（2 ページ）を掲載し配布

(1) 発行部数 200,000 部

(2) 配布場所 市内小中学校全児童生徒、市立図書館ほか

(3) 内容詳細 別添のとおり



すべての子どもたちが 読書に親しめる 環境整備を図ります

大阪府では、「大阪府子ども読書活動推進計画」(H18.3月)にもとづいて、すべての子どもたちが読書に親しめる環境整備を進め、さまざまな活動を展開しています。



図書館では、絵本の読み聞かせや紙芝居、人形劇など、子どもたちが本や物語に親しむきっかけづくりとなるイベントを随時開催しています。

調べもの

図書館へ行けば、夏休みの課題や白旗のちよっとした疑問に役立つ調べ物が見つかります。探している本が見つからなかったり、どの本で調べればいいのかわからないときは気軽に図書館の職員に聞いてください。



おあさかしりつ としよかん 大阪市立の図書館

お近くの図書館にお探しの本がなくても、他の図書館の蔵書から探すことができます。



開館時間 9:15~20:30(土・日・祝は17:00まで)
 中央図書館 10:00~19:00(土・日・11/3は17:00まで)
 地域図書館 全館(祝日は閉館)月曜・年末年始・蔵書点検期間
 地域図書館 月曜・月末・祝日(1/3は閉館)・年末年始・蔵書点検期間

区	館名	〒	TEL	FAX
西区	中央図書館	〒550-0014	TEL: 6539-3300	FAX: 6539-3335
	西区北堀江4-3-2		TEL: 6375-0410	FAX: 6371-3177
北区	北図書館	〒531-0074	TEL: 6354-3229	FAX: 6354-7822
	北区本庄東3-8-2		TEL: 6468-2336	FAX: 6468-5191
都島区	都島図書館	〒534-0027	TEL: 6463-3463	FAX: 6463-9688
	都島区中野町2-16-25		TEL: 6211-3645	FAX: 6212-5449
福島区	福島図書館	〒553-0006	TEL: 6576-2346	FAX: 6571-7915
	福島区吉野3-17-23		TEL: 6552-1116	FAX: 6551-9362
此花区	此花図書館	〒554-0014	TEL: 6771-2840	FAX: 6771-3801
	此花区四貫島1-1-18		TEL: 6632-4946	FAX: 6632-4973
中央区	島之内図書館	〒542-0082	TEL: 6474-7900	FAX: 6477-0463
	中央区島之内2-12-31		TEL: 6305-2346	FAX: 6305-9129
港区	港図書館	〒552-0007	TEL: 6323-5476	FAX: 6323-1738
	港区弁天2-1-5		TEL: 6972-0727	FAX: 6972-0278
大正区	大正図書館	〒551-0003	TEL: 6717-2381	FAX: 6717-3119
	大正区千鳥2-6-15		TEL: 6955-0307	FAX: 6955-0287
天王寺区	天王寺図書館	〒543-0037	TEL: 6931-6466	FAX: 6932-8871
	天王寺区上之宮町4-47		TEL: 6913-0772	FAX: 6913-3975
浪速区	浪速図書館	〒556-0015	TEL: 6656-1009	FAX: 6656-1043
	浪速区歌津西1-5-23		TEL: 6683-2788	FAX: 6683-8840
西淀川区	西淀川図書館	〒555-0012	TEL: 6606-4946	FAX: 6606-6987
	西淀川区都島1-2-10		TEL: 6699-7000	FAX: 6699-3222
淀川区	淀川図書館	〒532-0025	TEL: 6793-0681	FAX: 6791-5038
	淀川区新北野1-10-14		TEL: 6659-2346	FAX: 6659-2346
東淀川区	東淀川図書館	〒533-0023	TEL: 6972-0727	FAX: 6972-0278
	東淀川区東淡路1-4-53		TEL: 6717-2381	FAX: 6717-3119
東成区	東成図書館	〒537-0014	TEL: 6955-0307	FAX: 6955-0287
	東成区大今里西3-6-6		TEL: 6931-6466	FAX: 6932-8871
生野区	生野図書館	〒544-0021	TEL: 6913-0772	FAX: 6913-3975
	生野区勝山南4-7-11		TEL: 6656-1009	FAX: 6656-1043
旭区	旭図書館	〒535-0003	TEL: 6683-2788	FAX: 6683-8840
	旭区中宮1-11-14		TEL: 6606-4946	FAX: 6606-6987
城東区	城東図書館	〒536-0005	TEL: 6699-7000	FAX: 6699-3222
	城東区中央3-5-11		TEL: 6793-0681	FAX: 6791-5038
鶴見区	鶴見図書館	〒538-0052	TEL: 6659-2346	FAX: 6659-2346
	鶴見区横堤5-3-15		TEL: 6717-2381	FAX: 6717-3119
阿倍野区	阿倍野図書館	〒545-0052	TEL: 6955-0307	FAX: 6955-0287
	阿倍野区阿倍野筋4-19-118		TEL: 6931-6466	FAX: 6932-8871
住之江区	住之江図書館	〒559-0015	TEL: 6913-0772	FAX: 6913-3975
	住之江区南加賀屋3-1-20		TEL: 6656-1009	FAX: 6656-1043
住吉区	住吉図書館	〒559-0032	TEL: 6683-2788	FAX: 6683-8840
	住吉区遠里小野1-11-4		TEL: 6606-4946	FAX: 6606-6987
東住吉区	東住吉図書館	〒546-0032	TEL: 6699-7000	FAX: 6699-3222
	東住吉区東田辺2-11-28		TEL: 6793-0681	FAX: 6791-5038
平野区	平野図書館	〒547-0043	TEL: 6659-2346	FAX: 6659-2346
	平野区平野東1-8-2		TEL: 6717-2381	FAX: 6717-3119
西成区	西成図書館	〒557-0041	TEL: 6955-0307	FAX: 6955-0287
	西成区岸里1-1-50		TEL: 6931-6466	FAX: 6932-8871

平成19年度 大阪市学校図書館支援モデル事業 報告のまとめ

【事業の目的】

本市の小学校において、市立図書館や地域、家庭との連携のもと、読書支援活動ボランティアの協力を得て、学校図書館の充実に努め、児童の読書習慣の形成に資する。

【実施校】

大阪市立堀川小学校	大阪市立菅北小学校	大阪市立都島小学校
大阪市立桜宮小学校	大阪市立大開小学校	大阪市立春日出小学校
大阪市立伝法小学校	大阪市立中大江小学校	大阪市立開平小学校
大阪市立本田小学校	大阪市立波除小学校	大阪市立弁天小学校
大阪市立泉尾東小学校	大阪市立三軒家東小学校	大阪市立五条小学校
大阪市立天王寺小学校	大阪市立敷津小学校	大阪市立日東小学校
大阪市立姫里小学校	大阪市立福小学校	大阪市立佃西小学校
大阪市立西三国小学校	大阪市立加島小学校	大阪市立木川小学校
大阪市立宮原小学校	大阪市立井高野小学校	大阪市立菅原小学校
大阪市立片江小学校	大阪市立中川小学校	大阪市立大宮西小学校
大阪市立清水小学校	大阪市立東中浜小学校	大阪市立聖賢小学校
大阪市立みどり小学校	大阪市立今津小学校	大阪市立常盤小学校
大阪市立晴明丘小学校	大阪市立住吉川小学校	大阪市立南住吉小学校
大阪市立南住吉大空小学校	大阪市立山之内小学校	大阪市立東田辺小学校
大阪市立矢田西小学校	大阪市立長吉南小学校	大阪市立平野南小学校
大阪市立平野西小学校	大阪市立長橋小学校	大阪市立梅南小学校

以上 48 校

【実施状況】

○ ボランティアについて

保護者や地域の方々を対象に、学校便りや図書館だより、はぐくみネットの広報誌を通して募集した。地域の状況によっては、ボランティアの数が増えている学校もあるが、なかなか集まらず、小数のボランティアをお願いしている学校もある。

○ 学校図書館の開館について

多くの学校が、実施前と比較して開館時間が増加している。

開館の時間は、多くが週2～3回。毎日開館する学校も増えている。

開館する日数が少ない学校は、一日あたりの開館時間が長く、この間にボランティアが貸出だけでなく様々な業務を行っている。

- 支援内容について
学校図書館の開館、本の貸出・返却、読み聞かせ、図書の整理・修理、書架の整頓、掲示物の作成、図書選択のアドバイスなどである。
- ボランティア研修について
昨年同様、学校図書館支援ボランティアに関する基本的な研修会を1回、スキルアップ研修会を1回、計2回各学校で研修を行っている。スキルアップ研修会では、読み聞かせや、パネルシアターの作成・実演に関する実技研修が多い。
- 実践交流会（10月）について
平成18年度からの継続校5校から、平成19年度の新規モデル校24校に対して、モデル事業を推進にあたっての具体的ななてだてを報告してもらった。
グループ別交流会では、ボランティアの募集の仕方や各学校の具体的な取り組み、工夫を聞かせてもらい、交流を深めることができた。

【成 果】

- ・ 開館時間が増え、本に親しむ子どもが増え、貸出冊数も増加した。
- ・ 読み聞かせを通して、特に低学年の児童の図書への関心が高まり、図書館に行く子どもが増えた。また、集中して聞く態度が育ってきた。
- ・ 子どもから「読みたい本」への希望があがるようになり、読書意欲の向上が感じられる。
- ・ ボランティアの方々による図書の整備や修理、掲示物の作成や図書の紹介コーナーの工夫によって利用しやすい図書館づくりが進んだ。
- ・ 休み時間や放課後の子どもの居場所が増えた。
- ・ 教職員の協力体制が進み、読書活動を推進する機運が高まってきた。
- ・ 保護者から「本を読む習慣が身についた」「家族で公共図書館を利用する機会が増えた」との声が上がっている。
- ・ ボランティアの方々との交流が進み、地域ぐるみの子育てができつつある。

【課 題】

- ・ ボランティアの数を増やす。
→学校の実態によっては、すでに多くの教育活動でボランティアの協力を得ており、新たなボランティアを募集することが難しい現状がある。
- ・ 長期休業中の開館も含め、開館時間の増加を検討する。
→ボランティアの方々の自主的な活動が進んでいる学校がある一方で、ボランティアの数が少ないなど日程調整等が難しい状況もある。
- ・ 蔵書の充実・整備を図る。
→蔵書の適正廃棄に努めるとともに、公共図書館との連携を深めるなどして子どもが読みたい本、調べ学習用図書を整備する。
- ・ モデル事業の成果を全市に広め、学校図書館の活性化を図る。

平成 19 年度各区子どもの読書活動推進連絡会 報告

1. 実施状況

「平成 19 年度大阪市立図書館子ども読書活動推進関係事業のまとめ」のとおり

2. 構成

ボランティアグループ、生涯学習推進員、区役所生涯学習担当、保健福祉センター地域保健福祉担当、支運営担当、子育て支援担当、保育所、子育て支援センター、幼稚園、小学校(学校図書館支援モデル事業実施校)、中学校、子ども・子育てプラザ、区社会福祉協議会、区コミュニティ協会など

- ・構成は区によって多少異なる。
- ・更生保護女性会、私立保育園、高等学校等の参加を得た区もあった。
- ・昨年度の準備会では中学校の参加はなかったが、今年度は4区7校の参加を得た。

3. 主な協議内容 (かっこ内は区名)

(1) 区内の子どもの読書支援活動について

- ①各施設や団体で実施されているさまざまな読書支援活動について報告し、状況把握や課題について共有化した。
- ②読書マップの作成や絵本講演会の実施など、連絡会としての情報発信を実施した。
- ③小学校での読書推進を進める上で、幼稚園や保育所での取り組みを知る必要性に気づく等、立場が違う参加者の情報交換によって、新たな発見やアドバイスを得られた。
- ④民間施設やその施設で活動するボランティアなどに対する働きかけはまだ不十分であり、今後の課題である。

- ・区内の活動状況をまとめる読書マップを作成(阿倍野。住吉では次年度の課題としている)
- ・連絡会として情報発信をしていこうと、絵本や読み聞かせの魅力を伝える講演会を開催した(鶴見)
- ・連絡会で話し合われたことが広く伝わるように、連絡会だよりを発行した(淀川)
- ・「大阪市子ども読書活動推進計画」に比して、区としてできていること、これからの課題を整理した(旭)
- ・区独自の設置要綱を定めるよう求められ作成した(淀川)

(2) 学校図書館支援モデル事業について

- ①今年度は48校でモデル事業が実施され、モデル校、ボランティアから学校図書館での子どもたちのようす、事業の成果、課題などが話し合われた。

【成果】

- ・学校図書館にくる子が増えた(天王寺)
- ・ボランティアの本の修理作業を見ていた子どもたちが自分たちでも修理を始め、本を大切にするきっかけとなった(旭、住吉)
- ・教職員の間で読書の大切さについての認識が深まった(中央)など

【課題】

- ・市立図書館から本を借りたいが搬送手段がない(西、此花、住吉)
- ・ボランティアを増やしたいが難しい(福島、東淀川)
- ・モデル校の運営についての情報がほしい。モデル校同士の情報交換ができないか(大正)
- ・学校図書館に人の配置が必要(西)
- ・司書教諭の時間の負担が大きい(此花)

(3) はぐくみネット等と読書支援活動について

- ①区民企画室でははぐくみネット等を担当する職員や生涯学習推進員の参加が増え、はぐくみネットや生涯学習ルーム事業と子どもの読書支援活動をつなぐ取り組みが増えることが期待される。

- ・ルーム事業の中で推進員とも話し合い、子どもたちを巻き込んでいきたい。学校によって対応が違うが、関係を密にして取り組みたい(港)
- ・ルーム事業等で親と子どもを中心とした講座をしていきたい(天王寺)
- ・推進員協議会としては、低学年の読書支援活動を進める(浪速)
- ・いきいき放課後事業で地域の小さい子どもに読み聞かせをする等、小中学生のボランティア活動ができないだろうか(住之江)

(4) 子育て支援と読書支援活動について

- ① 子育て支援センター、子ども・子育てプラザ、図書館などで定期的に実施されているおはなし会等のように報告された。絵本の楽しさを知ってもらうために、保護者に対する働きかけが大事だということも話し合われた。

- ・ 保育所や幼稚園の保護者向けに読み聞かせの講習をするなど、保護者の意識を変える取り組みが必要(住之江)
- ・ 子育て中の親は意外と区の広報誌を見ていないので広報に工夫が必要(此花)
- ・ 絵本は文字を覚える勉強の手段、と思っている人が多く、絵本は一緒に楽しむもの、とアドバイスしている(浪速)
- ・ 地域協働プログラムで乳幼児向けのプログラムができないか。保育ボランティアの様子を見て、読み聞かせの有用性を感じている(城東)

(5) ボランティアの読み聞かせ等の活動、各施設との連携

- ① 区内で開催されるさまざまな催しにボランティア等が参加し、子どもの読書の楽しさを伝える機会を広げていることが報告された。

- ・ 子育てわくわく みのりちゃんフェスタ、区民文化のつどい、生涯学習ルーム 10 周年記念事業、クレオ大阪北フェスタなど、横の連携がうまくいって、新たな取り組みにもつながっている(東淀川)
- ・ 地元で活動することで子どもたちと顔見知りになり、子どもの安全を見守る役割も担っている(此花)
- ・ 1歳6か月児、3歳児健診の際にも読み聞かせにきてもらいたいが、ボランティアの活動に余力がない(東住吉)
- ・ ボランティアの年齢層が30代から70歳代まで幅広くて互いに勉強になる(北)
- ・ 図書館のおはなし会にいつも参加している子が小学生になり、お母さんが学校で読み聞かせボランティアの立ち上げに尽力されたと聞き、たいへんうれしかった。親子で絵本を楽しんでくれた体験がこのような形で実を結んでいることを目の当たりにし、あちこちで本と出合える環境をつくりたいと思った(東淀川)
- ・ 講座、催しの情報交換ができるしくみづくりができないか(東淀川)

資料6

平成19年度 大阪市立図書館子ども読書活動推進関係事業のまとめ(平成20年3月末現在) 1/2

	館内の催し(実施件数) (子ども読書の日記念事業、大阪市図書館フェスティバル含まず)							子ども読書の日記念事業(春)	
	紙芝居、絵本の読み聞かせ等	乳幼児おはなし会	ストーリーテリング等	子ども会	工作教室	おりがみ教室	その他	内容	参加者数
中央図書館(西区)	93	24	11	3	1		17	講演会「もーやんのえほんのはなし」 絵本の会西の春の子ども会	143 80
北図書館	34	16		3	1			子ども会	18
都島図書館	45	16		3				子ども会	42
福島図書館	49	15	1		1		7	吉野こども寄席	30
此花図書館	66	4		2	1			春のおたのしみ会	43
島之内図書館(中央区)	31	16		2	1			春の子ども会	21
港図書館	49	9		2	1		2	春の子ども会	31
大正図書館	9	52	21	2		12	4	ストローで作る鯉	27
天王寺図書館	30	20	10	4	3	2	13	ぼちぼちの楽しいおはなし会	34
浪速図書館	50	14		2	2	1		牛乳パックでカラクリ人形	13
西淀川図書館	61	36	25	3	5		4	子ども会	58
淀川図書館	35	35	4	1			1	春の子ども会	32
東淀川図書館	70	4		4	3		33	おはなしたのしいな！ 柴藤愛子講演会「絵本の楽しさを！」	29 22
東成図書館	58	15		1	2			どんぐりんのラブリーシアター	34
生野図書館	14	12		2	1	10		春の子ども会	39
旭図書館	59	16		4	2	6	9	マンマ・ムジカのファミリーコンサート	75
城東図書館	49	23	1	2	1			春の子ども会	43
鶴見図書館	51	4		3	3	11	7	ちいさな子のおたのしみ会 でんでんむしのおはなし会	55 15
阿倍野図書館	46	36	9	1	1		3	おはなし大会	52
住之江図書館	44	16		2	3			えほんであそぼ！	29
住吉図書館	29	46	18	2	1	2	13	はるのおはなし会 人形をつくろう	25 20
東住吉図書館	62	14		1	10	10	1	みんなと赤ずきんと絵本であそぼう！	49
平野図書館	67	41	1	3	12	12	5	ちっちゃな蕾のファミリーコンサート	130
西成図書館	47	12		4				春のおたのしみ会	12
合計	1148	496	101	56	55	66	119		1201

大阪市図書館フェスティバル(秋)		幼児期読書環境整備事業 (実施施設数/対象施設数)			ブックスタート 事業実施日	学校との連携 (件数)						
内容	参加者 数	幼稚園	保育所	その他子育て 支援施設		団体貸 出件数 (校数)	貸出冊数	図書館 見学	調べ学 習支援	おはな し会等 読書支 援	体験学 習	図書主 任会へ の参加
荒井良二先生くとあそぼう！ ガラスに模様を彫ってみよう～クラブ パーク出前講座～ 図書館たんけん隊！	50 35 65	5/5	2/2	2	第1水曜	26	1244	23	6	1	4	1
どんぐりんのラプリーシアター	28	4/4	2/2	5	第1金曜	6	1731	11	22	9	2	1
子ども会 都島区民文化のつどい 人形劇	29 50	1/1	2/2	1	第3水曜	5	681	7	4	10	6	3
マトリョーシカのおたのしみ会	30	2/3	4/4	1	第1水曜	7	1538	7	10	46	1	
秋のおたのしみ会	45	1/1	4/4	2	第2火曜	5	335	8	5	1	1	
工作教室「その本おもしろい？」	20	5/6	1/1	1	第3火曜	5	342	4	5	15	1	1
秋の子ども会	40	1/1	3/3	2	第4水曜	6	1070	6	18	25	4	1
工作教室「たのしいネコを作ろう！」	20	5/6	12/12	1	第1火曜	12	2021	10	4	72	2	
ぼちぼちのたのしいおはなし会	35	5/5	2/2	1	第3月曜	7	4498	13	21	24	14	1
ぐるーぶぬ！劇場	27	3/3	10/10	1	第1水曜	6	565	4	4	30	2	
アイリッシュハーブで楽しむえほんt ime	45	4/4	10/11	2	第4火曜	8	1300	13	8	70	3	2
リサイクル工作教室「バタバタ鳥をつ くろう！」	10	3/3	7/7	1	第1火曜 第3火曜	9	1715	11	16		4	1
ギター・マンドリン&絵本	42	0/0	9/10	1	第2水曜 第4水曜	8	535	16	3	49	3	4
くみどりの秋のおはなしライブ	61	4/5	4/5	1	第2木曜	10	1849	6	13	3	4	2
秋の子ども会—ぐるーぶ「ぬ！」劇場—	42	1/1	5/5	2	第1水曜 第3水曜	13	2140	12	20	52	3	1
子ども向け落語会	38	1/1	8/8	1	第4木曜	10	1955	6	15	64	7	2
秋の子ども会	26	2/2	5/5	3	第1月曜 第3月曜	14	1976	17	18	12	3	
親子で絵本をつくろう！ 万年カレンダー作り	18 8	1/1	5/5	1	第2月曜 第4月曜	9	1150	12	5	43	4	1
絵本を楽しもう	68	0/1	3/3	1	第1木曜	8	1299	8	18	48	4	1
くみどりのおたのしみ会 工作教室	50 30	1/1	5/5	1	第2火曜 第3水曜	3	1925	10	5	25	2	1
猫の人形作り教室 あきのおはなし会	28 22	2/2	5/5	1	第2木曜 第4木曜	9	1465	11	25	24	1	1
昔あそびしましょ！	12	0/0	6/6	2	第1月曜 第1水曜	14	4989	11	64	78	5	2
おりがみ教室 あつぷぶ劇場 あそび工房 秋のこども会	22 100 22 100	5/6	12/12	1	第1金曜 第3金曜	21	4750	11	21	91	10	
作ってあそぼう～手作りおもちゃを 楽しむ～	35	3/3	12/12	1	第4火曜	1	190	3	5	60	3	
	1253	59/65	138/141	36		222	41263	240	335	852	93	26

平成19年度 大阪市立図書館子ども読書活動推進関係事業のまとめ(平成20年3月末現在) 2/2

	学校図書館支援モデル事業実施校		ボランティア養成講座 (ステップアップ含む)		区の子どもの読書活動 推進連絡会開催日
	18年度継続校	19年度新規校	回数	参加者 (延べ人数)	
中央図書館(西区)	本田	—	9	440	2月19日
北図書館	堀川	菅北	6	50	2月7日
都島図書館	都島	桜宮	5	37	4月23日 10月12日
福島図書館	大開	—	4	6	6月28日 2月29日
此花図書館	春日出	伝法	2	18	11月8日 2月26日
島之内図書館(中央区)	中大江	開平	3	18	10月26日
港図書館	波除	弁天	6	68	9月13日 2月14日
大正図書館	泉尾東	三軒家東	9	80	11月29日
天王寺図書館	五条	天王寺	2	12	11月9日
浪速図書館	敷津	日東	3	9	11月16日
西淀川図書館	姫里	福 佃西	12	171	8月7日 2月5日
淀川図書館	西三国	加島 木川 宮原	8	56	7月6日 2月15日
東淀川図書館	井高野	菅原	3	43	5月25日 3月7日
東成図書館	—	片江	2	14	3月28日
生野図書館	—	中川	9	67	10月26日
旭図書館	大宮西	清水	24	152	8月28日 2月28日
城東図書館	東中浜 聖賢	—	3	21	7月31日 2月22日
鶴見図書館	みどり	今津	14	80	9月5日 2月27日
阿倍野図書館	常盤	晴明丘	1	10	4月17日 10月16日
住之江図書館	住吉川	—	3	30	6月14日
住吉図書館	南住吉	南住吉大空 山之内	1	9	3月6日
東住吉図書館	東田辺 矢田西	—	3	28	12月6日
平野図書館	長吉南	平野南 平野西	6	60	10月17日
西成図書館	長橋	梅南	1	11	3月26日
合計	24校	24校	139	1490	

阿倍野区子どもの読書マップ

資料7

阿倍野区子どもの読書活動推進連絡会(事務局:阿倍野図書館)

2007. 12. 作成 2008. 1. 改訂



喜久屋書店 子ども館
あべのルシアス 2階 不定休
Tel:6634-8139
おはなし会:第4土曜日3:00~

旭屋書店 Mio 店
天王寺 Mio 9階 不定休
Tel:6773-0107

ユーゴー書店
阿倍野筋 1-3-18
元旦以外無休
Tel:6623-2341

たがみ書店
天王寺町北 3-11-6
月末月初を除く日曜日休
Tel:6714-5033

大阪市立阿倍野図書館
阿倍野筋 4-19-118 Tel:6656-1009
平日 10:00~19:00
土曜・日曜・祝日 10:00~17:00
休館日 毎週月曜日・毎月末
年末年始・蔵書点検期間
毎週土曜日 11:00~:おたのしみ会
第2火曜日 11:00~:びよびよおたのしみ会
第2・第4金曜日 11:00~:びよびよひろば
第1土曜日 午後2時~:
小学生のためのおはなし会

自動車文庫まちかど号
三明町公園 (三明町 2-9)
月1回火曜日 10:10~10:55

久保書店
昭和町 1-8-14
日曜定休
Tel:6621-7473

童女のえほん箱 よんたり~な
文の里 3-13-4
1月・3月を除く毎月 1日
1:00~3:00

今西書店
阿倍野元町 3-21
日曜日定休
Tel:6622-3280

おおさきや書店
昭和町 1-21-25
年中無休
Tel:6629-0320

王子書店
王子町 3-5-4
王子商店街内 不定休
Tel:6621-7003
おはなし会:第3土曜日
11:00~

自動車文庫まちかど号
阿倍野小学校西運動場
(阪南町 2-13)
月1回金曜日 13:05~13:45

自動車文庫まちかど号
阪南小学校北門
(阪南町 5-7)
月1回金曜日 14:05~14:45

子ども・子育てプラザ 阪南町 2-23-21
第3金曜日 11:00~11:30 絵本の読み聞かせ

ももやまぶんこを支える会
一会(いちえ)にて随時お話し会

自動車文庫まちかど号
昭和中学校正門 (桃ヶ池町 2-3)
月1回金曜日 10:10~11:10

ろばのこ文庫
帝塚山 1-2-14 姫松教会地下ホール
毎週水曜日 14:00~17:00 開放
第3水曜日 15:30~ おたのしみ会
第4水曜日 16:00~ おはなし会

大正書房 西田辺店
阪南町 5-17-3 無休
Tel:6623-1518

サロンひだまり
播磨町 1-14-21 播磨町文化会館
Tel:6628-1212
第1火曜日 10:30~12:00 絵本の読み聞かせ

- ☺ 子どもの本を扱う本屋さん
- ☀ 図書館、自動車文庫
- ★ その他

第33回鶴見区民まつり協賛
 大阪市立鶴見図書館・主催
 鶴見区子どもの読書活動推進連絡会・協賛

えほんこうえんかい
絵本講演会

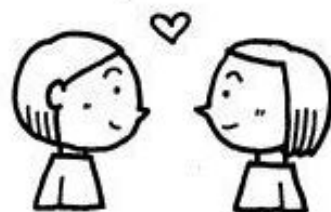
おやこ たの えほん せかい
「親子で楽しむ絵本の世界

よ みりよく
「読みがたりの魅力」

幼児にどんな絵本がよいの？どう読んだらよいの？ そういった疑問を解き明かし、絵本の魅力と読みがたりの魅力をたっぷり語っていただく講演会を催します。
 幼児がいらっしゃるご家族の方、ぜひお越しください！

日時：9月9日（日）午後1時30分～3時

会場：鶴見区民センター2F 小ホール



講師：乃村 葉子さん（子どもの本だいすき「空」の会代表）

対象：一般の方 ※子ども連れ可（一時保育はありません）

定員：200名（当日先着順）

参加：無料

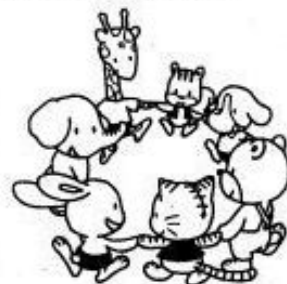


引き続き3時10分からは、「ごまだんご」さんによる、

「えほんのじかん」

鶴見図書館多目的室にて、子ども向けに絵本の読み聞かせなどをおこないます。

どなたでもご参加いただけます。定員は60名まで。こちらも無料です。



問い合わせ先：鶴見図書館（電話 6913-0772）

淀川区 神津小学校読み語りグループ

絵本のくに・・・感動つたえ隊^{たい}

1. あゆみ

- a. H14年（2002年）6月発足
当時2年の親数名が年2回、図書時間に2年生に読み語り
3学期、昼休みに多目的室で読み語り
- b. H15年（2003年）
1年から3年まで全クラス、毎週水曜日、朝の会（15分）に読み語り
- c. H16年（2004年）以降
1年から6年まで全学年全クラス、毎週水曜、朝の会（15分）に読み語り
「いきいき」での読み語り 第2、第4水曜3：00～3：30
年間のお話会 1）戦争のお話会（6、7月）・・・4～6年
2）読書週間のお話会（11月～3月）・・・1～3年
3）6年生を送る会（2月）
- d. H20年（2008年）現在 メンバー数40人 本年度はぐくみネットモデル校

2. 平成19年度の特別活動

上記cの通常活動以外に以下のような活動を行った。

- 1) 新1年生のためのお話会（4月6日入学式）入学式の親の説明会の間各クラスで
- 2) P T A 予算総会時のお話会（6月10日）親が総会出席中の子どものためのお話会
- 3) 新北野中学校での活動
新北野中学校下の田川小、塚本小の読み語りグループと連携して次の2事業を行った。
 - ① 中学生読み語りボランティア支援（7～8月）
夏休み中、各小学校の「いきいき」で読み語りボランティアをする中学生を募集し、
中学生が小学生の前で本を読み語るのを支援
 - ② 中学生のためのお話会（10月24日）
中学1、2年の全クラスに2名ずつがボランティアに入り、1人20分の持ち時間
に10分ほどの絵本を読み、残り10分ほどでその関連本を紹介する（ブックトーク）
- 4) 絵本作家「川端誠さん」講演会（12月11日）
作家訪問を企画し、落語シリーズなどで著名な川端誠さんを招いて、4年から6年まで各学年に開き読みお話会をしていただき、午後は一般向けに絵本ができる過程や絵本に対する姿勢などの講演会をしていただく。
- 5) メンバーのためのスキルアップ講習会
 - ① 読み語り全般の注意事項（4月18日）講師 なにわ語り部の会 銚栄美子先生
 - ② ブックトーク講習会（10月10日）講師 淀川図書館 藤井館長
 - ③ おもしろ絵本紹介（1月16日）講師 加藤啓子先生
 - ④ 1人読み語り講習会（1月23日）講師 淀川図書館 藤井館長
 - ⑤ お話会の組み立て方（2月6日）講師 中央図書館 小前係長・山崎館員
グループ「魔女まじょ」牧野代表

- 6) 市教委よりの依頼ではぐくみネット講習会でお話会、またはスキル講習会
- ① 5月31日 子ども文化センター「ストライプ」上演、パネルディスカッションに参加
 - ② 6月8日 アベノ市民学習センター「ことりをすきになった山」上演
 - ③ 11月18日 総合生涯学習センター「読み聞かせのコツを学ぼう」というテーマでメンバーが講師となって紹介
 - ④ 2月23日 はぐくみネットフォーラム 北区民センター 神津小のはぐくみの取り組み紹介と「さっちゃんのまほうのて」上演、パネルディスカッションに参加
- 7) メディア出演
- ①毎日放送ラジオ「馬場章夫の大阪大発見」出演（2月17日 8:00～8:30am 放送）
 - ②大阪日日新聞に読み語りの記事が載る（2月21日朝刊）
- 8) 第9回読み語りグループ地域交流会（12月7日 淀川図書館）
- 神津小学校「絵本のくに」の提唱により平成16年度6月より年2回（H16のみ3回）6月と12月におもに淀川区内で読み語りをしているグループが集まり、意見情報交換会を行っている
- 9) 低学年図書室の蔵書目録づくり（H19年3月）

平成19年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会出席者名簿

(平成20年3月14日)

お名前 (敬称略)	代表区分	所属・役職名等
脇谷 邦子	学識経験者	同志社大学嘱託講師、元府立図書館こども資料室長
松田 裕子	学識経験者	全国学校図書館協議会学校図書館活動推進委員
西岡 義治	社会教育関係団体	大阪市PTA協議会会長
平井 さより	社会教育関係団体	大阪市PTA協議会副会長
松岡 義博	社会教育関係団体	大阪市生涯学習推進員協議会運営委員長
松井 芳春	社会教育関係団体	大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長
香川 婦美子	社会教育関係団体	大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長
谷口 千穂	区の子どもの読書活動推進連絡会代表	菅北小学校 ボランティア
吉田 多恵子	同上	都島 都島おはなしサークル「シフカ・ブールカ」
福山 千恵子	同上	福島 おはなしボランティア「マトリョーシカ」
中西 由利	同上	此花 此花図書館 絵本の会
釣島 恭子	同上	中央 絵本の会 島之内
牧野 真美	同上	西 おはなしの会まじょ魔女/絵本の会 西
駒崎 順子	同上	西 おはなしの会まじょ魔女
永田 勝枝	同上	港 絵本の会 港
菅原 道子	同上	大正 泉尾東小学校図書館ボランティア
南部 里美	同上	大正 泉尾東小学校図書館ボランティア
今枝 義啓	同上	大正 泉尾東小学校 校長
野田 祐子	同上	天王寺 天王寺おはなし「ぼちぼち」
上田 道代	同上	浪速 なにわえほんの会
松本 恵子	同上	西淀川 絵本の会 西淀川
松尾 佳美	同上	淀川 神津小学校「絵本のくに」
渡邊 裕美子	同上	東淀川 おはなしボランティアとことこ代表、民生委員主任児童委員
村田 せつ子	同上	東淀川 絵本の会東淀川、なにわ語り部の会、民生委員児童委員
大内 和子	同上	東成 絵本の会 東成
石多 英男	同上	生野 あじさいブッククラブ
岡野 伊都子	同上	旭 旭おはなしたい すみれ
寺嶋 郁子	同上	城東 城東絵本の会
室屋 佐知子	同上	鶴見 絵本の会 鶴見
三栖 佳子	同上	阿倍野 阿倍野グループ たんぼぼ
堀 久仁子	同上	阿倍野 阿倍野区コミュニティ協会
西本 みどり	同上	住之江 絵本の会住之江
山田 逸子	同上	住吉 住吉 絵本の会
豊田 順子	同上	住吉 くすの木
山田 未知子	同上	東住吉 おはなしたまてばこ
堺 紀久子	同上	平野 おはなし「たからばこ」
津村 陽子	同上	西成 西成絵本の会代表

平成19年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会事務局名簿

(平成20年3月14日)

教育委員会事務局中央図書館

所 属	氏 名
中央図書館館長	吉原 康文
中央図書館副館長	本川 敏一
中央図書館総務担当課長	菱岡 省二
中央図書館利用サービス担当課長	梅沢 忠利
中央図書館地域サービス担当課長	戸部 久三
中央図書館地域サービス担当課長代理	桐生 偉人
中央図書館利用サービス担当課長代理	大久保 典子
中央図書館 担当係長	小前 恭則
〃 〃	島上 智司
〃 〃	齊藤 美子
北図書館長	秋山 昌子
都島図書館長	齋藤 健一
福島図書館長	池上 也之保
此花図書館長	長山 美智子
島之内図書館長	島津 秀信
港図書館長	柴田 晴美
大正図書館長	阪田 佳子
天王寺図書館長	波床 裕子
浪速図書館長	小林 崇子
西淀川図書館長	赤利 令
淀川図書館長	藤井 直美
東淀川図書館長	矢野 明子
東成図書館長	平田 満子
生野図書館長	山田 和伸
旭図書館長	八木 由美
城東図書館長	赤堀 祐子
鶴見図書館長	宮田 英二
阿倍野図書館長	瀧澤 裕美子
住之江図書館長	長谷部 絵理
住吉図書館長	角田 人志
東住吉図書館長	竹田 君代
平野図書館長	松下 玲子
西成図書館長	村岡 和彦

教育委員会事務局指導部

所 属	氏 名
初等教育担当課長	柴山 浩一
初等教育担当 指導主事	松井 奈津子

教育委員会事務局生涯学習部

所 属	氏 名
市民学習振興担当課長	森本 充博
生涯学習部 副参事兼担当係長	下阪 善彦

「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」実施報告書

平成20年（2008年）7月

大阪市教育委員会

〒530-8201

大阪市北区中之島1-3-20